

国立国会図書館



「ダイナミックな図書館：アクセス、発展、変化」
世界図書館・情報会議 第81回国際図書館連盟（IFLA）年次大会
図書別室の資料から 第2回 写真帳
国際子ども図書館アーチ棟に児童書研究資料室が開室しました

2015.12
No. 656

国立国会図書館利用案内

東京本館

所在地 〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話番号 03(3581)2331
利用案内 03(3506)3300(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和洋の図書、和雑誌、洋雑誌(年刊誌、モノグラフシリーズの一部)、和洋の新聞、各専門室資料

サービス時間

開館時間	月～金曜日 9:30～19:00 土曜日 9:30～17:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の開室時間は17:00までです。	即日複写受付	月～金曜日 10:00～18:00 土曜日 10:00～16:00
資料請求受付★	月～金曜日 9:30～18:00 土曜日 9:30～16:00 ※ただし、音楽・映像資料室、憲政資料室、古典籍資料室の資料請求時間は16:00までです。	後日郵送複写受付★	月～金曜日 10:00～18:30 土曜日 10:00～16:30

★登録利用者限定のサービスです。

■見学のお申込み／国立国会図書館 利用者サービス部 サービス運営課 03(3581)2331 内線25211

関西館

所在地 〒619-0287 京都府相楽郡精華町精華台8-1-3
電話番号 0774(98)1200(音声サービス)
ホームページ <http://www.ndl.go.jp/>
利用できる人 満18歳以上の方
ただし、満18歳未満の方には、個別に相談に応じています。詳しくはホームページをご覧ください。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 日曜日、国民の祝日・休日、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
おもな資料 和図書・和雑誌・新聞の一部、洋雑誌、アジア言語資料・アジア関係資料(図書、雑誌、新聞)、科学技術関係資料、文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書、博士論文

サービス時間

開館時間	月～土曜日 10:00～18:00	即日複写受付	月～土曜日 10:00～17:00
資料請求受付★	月～土曜日 10:00～17:15	後日郵送複写受付★	月～土曜日 10:00～17:45
セルフ複写受付	月～土曜日 10:00～17:30	★登録利用者限定のサービスです。	

■見学のお申込み／国立国会図書館 関西館 総務課 0774(98)1224 [直通]

国際子ども図書館

所在地 〒110-0007 東京都台東区上野公園12-49
電話番号 03(3827)2053
利用案内 03(3827)2069(音声サービス)
ホームページ <http://www.kodomo.go.jp/>
利用できる人 どなたでも利用できます。
資料の利用 館内利用のみ。館外への帯出はできません。
休館日 月曜日、国民の祝日・休日(5月5日こどもの日は開館)、年末年始、資料整理休館日(第3水曜日)
※児童書研究資料室は、システムメンテナンス等のため臨時休室することがあります。
おもな資料 国内外の児童図書・児童雑誌、児童書関連資料

サービス時間

開館時間	火～日曜日 9:30～17:00		
児童書研究資料室の資料請求受付	火～日曜日 9:30～16:30		
複写サービス時間	即日複写受付	火～日曜日 10:00～16:00	後日郵送複写受付 火～日曜日 10:00～16:30
	複写製品引渡し	火～日曜日 10:30～12:00 13:00～16:30	

■見学のお申込み／国立国会図書館 国際子ども図書館 03(3827)2053 [代表]

C O N T E N T S

02 渋川春海自筆書簡 「貞享暦」にかけた生涯

今月の一冊 国立国会図書館の蔵書から

04 「ダイナミックな図書館：アクセス、発展、変化」

世界図書館・情報会議 第81回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会

15 図書別室の資料から 第2回 写真帳

18 What's 書誌調整ふたたび 第3回 典拠は大切—Web NDL

Authoritiesを使ってみよう！— (前編)

22 TOPIC

○国際子ども図書館アーチ棟に児童書研究資料室が開
室しました

24 館内スコープ

国際子ども図書館に住む妖精 児童書研究資料室の移
転

25 本屋にない本

○「こぐま社の絵本研究」

26 NDL NEWS

- 国際子ども図書館新館完成記念式典
- 第26回納本制度審議会および第11回納本制度審議
会代償金部会
- 韓国国立中央図書館との第18回業務交流

29 お知らせ

- 平成27年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウ
ム「地域の記録としての震災アーカイブ～未来へ伝
えるために～」
- 本の万華鏡 (第20回) 「本でたどる琳派の周辺」
- 年末年始のご利用について
- 子どものへや・世界を知るへやの休室
- 新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物

33 『国立国会図書館月報』年間索引

国立国会図書館の蔵書から

渋川春海自筆書簡 「貞享暦」にかけた生涯

上田 由紀美



貞享二年 伊勢暦
(貞享暦による最初の暦)
『古暦帖』<請求記号 本別
15-21>より
[http://www.ndl.go.jp/koyomi/
rekishi/03_kaireki.html](http://www.ndl.go.jp/koyomi/rekishi/03_kaireki.html)
(電子展示会「日本の暦」)

今年、^{しぶかわしゅんかい}渋川春海¹ (1639-1715) の没後300年にあたる。渋川春海については、近年『天地明察』という小説²や映画³で紹介されたため、ご存知の方も多であろうか。日本初の国産暦である「貞享暦」を作り、江戸幕府の初代天文方(天文・暦術等を担当する職名)となった人物である。

今回紹介するのは、渋川春海の晩年の書簡(写真1)であるが、まずは、「貞享暦」成立までの半生を振り返っておきたい。

渋川春海が生まれたのは、江戸時代初期の寛永16(1639)年。囲碁の家元、安井家の生まれだが、幼少の頃から天文暦学に関心が深かったという。当時の日本では、中国の唐代に作られた^{せんみょうれき}宣明暦という暦法が800年以上にわたって使われていた。そのため、冬至や夏至が2日もずれる等の問題が生じており、春海は、暦の改定(改暦)に取り組むようになる。

しかし、改暦の実現は容易ではなかった。まず、春海は、中国元代の^{じゅじれき}授時暦を研究し、延宝元(1673)年、35歳にて、授時暦による改暦を上表(君主に意見書を奉ること)する。だが、日食の予報をはずし、改暦は頓挫してしまう。春海の真価が発揮されるのは、ここからである。春海は、この失敗から研究を深め、中国と日本の経度差の問題等に気づき、授時暦に改良を加えた日本独自の暦を作り上げた。しかし、天和3(1683)年、45歳にて行った改暦の上表は、またしても却下され、明代の大統暦の採用が決まってしまう。それでも、春海は諦めず、貞享元(1684)年、3度目の上表を行い、ついに自らが作成した「貞享暦」

による改暦を実現させたのである。

当館は、渋川春海が60代から70代にかけて、土御門泰福(1655-1717)に宛てた書簡を所蔵する⁴。土御門泰福は安倍晴明の末裔にあたる^{おんようのかみ}陰陽頭で、春海の協力者であったとみられる。

これらの書簡の中で、春海は、有職の家である祖先の渋川姓に復したこと、官位の斡旋を願うこと、登城中に中風(脳卒中か)を起こしたこと、息子の死後に甥が家督を継いだこと等々を語っており、興味深い。

ところで、「貞享暦」をめぐるのは、春海の晩年にも一騒動があった。元禄16(1703)年、儒学者たちが、中国が豊作で日本は不作なのは暦が悪いわけではないか、中国の暦は15人が署名するが、「貞享暦」は一人の作だから誤りがあるのではないかと等、申し立ててきたのである。この騒動は、京都や長崎の天文暦学者もこぞって「貞享暦」を支持したため、無事におさまったが、春海は「^{ふくる}腹脹之事也」と腹立ちを弟子に語っている⁵。一方、翌年、土御門泰福に宛てた書簡(写真1 上段5~6行目)では、「若^{もし}貞享暦^{あし}悪と申立候^{そうらわば}ハ、春海^{いか}が^{そうらわんや}如何候半哉(もし貞享暦が悪いと申し立てるのであれば、私、春海は、いったいどのようなになりましょうか。)」と記しているのが印象的である。「貞享暦」を抛り所として初代の天文方になった春海の、いまだ不安定な立場がうかがえるとともに、「貞享暦」の正しさを示すためには、何人との対決も辞さない覚悟が伝わってくるようにも思われるのである。

(うえだ ゆきみ 利用者サービス部人文課)

1 初め安井氏、のち保井氏。名は都翁。字は順正、春海。通称、算哲(2世)、助左衛門。渋川姓は元禄15(1702)年以降であるが、本稿では渋川春海の名称で統一する。なお春海は「はるみ」とも読む。

2 冲方丁著『天地明察』角川書店 2009

3 滝田洋二郎監督、2012年9月15日公開。

4 『渋川春海自筆書簡』24通<請求記号 WA25-84>。元禄末から正徳5(1715)年まで24通。うち土御門泰福宛22通、大谷主税宛1通、宛名無記名1通。『国立国会図書館所蔵貴重書解題』第10巻(書簡の部 第1)(1980)に翻刻あり。

5 谷重遠著『泰山集』巻35 谷干城 1910

なお、国立科学博物館(東京上野公園)では、「渋川春海と江戸時代の天文学者たち」が開催されます(会期:2015年12月19日~2016年3月6日)。

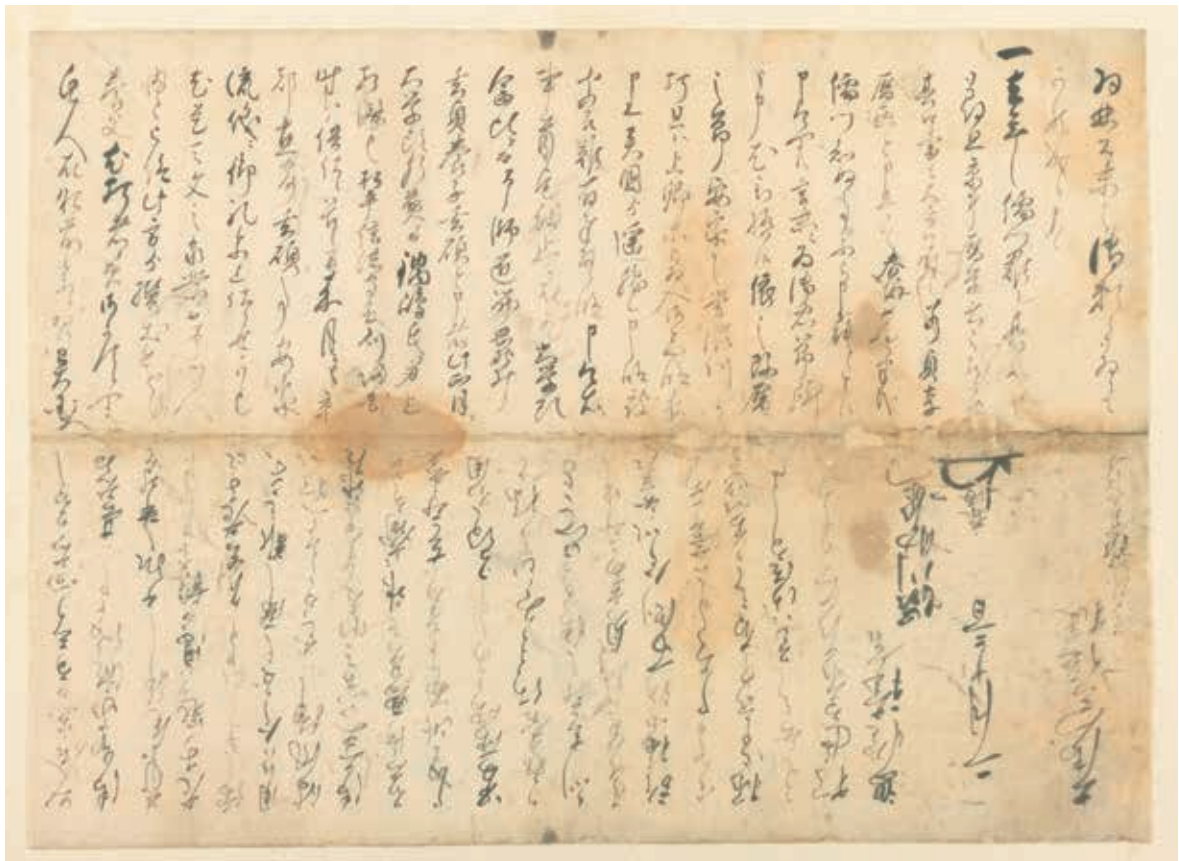


写真1 『澁川春海自筆書簡』から 土御門泰福宛 元禄17年2月13日付 (<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2585721>)

『澁川春海自筆書簡』
24通
〈請求記号 WA25-84〉
※古典籍資料室所管

上段3行目～9行目途中の翻刻

- 3 一去年之儒門難シ其□□□
- 4 御尋且京中曆学者被召候由
- 5 其御書も大方ハ承候若貞享
- 6 曆悪と申立候ハ、春海如何候半哉
- 7 儒門知め事不被申が能候とハ
- 8 申上候へ共言末二為御忠節所
- 9 被申尤至極候・・・



写真2 八尺表

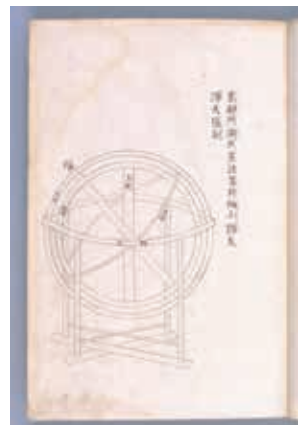


写真3 渾天儀

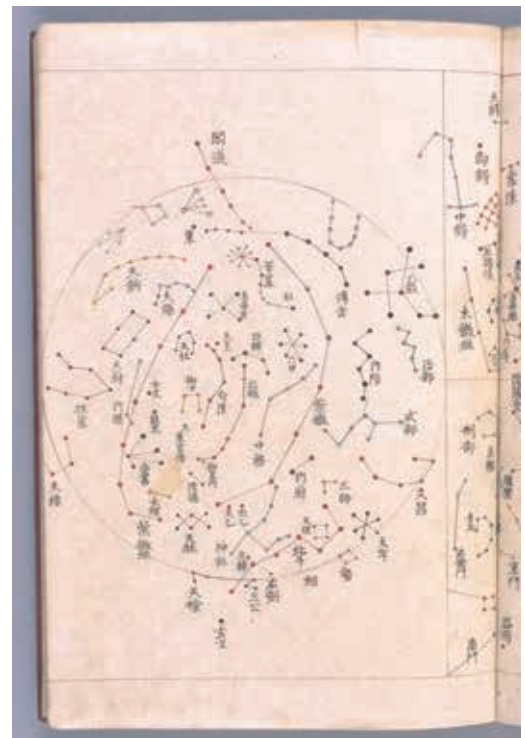


写真4 天文成象之図

2度目の上表が却下された折、澁川春海と土御門泰福は、京都の梅小路の土御門邸において観測を行い、「貞享暦」の正しさを立証した。写真2は影の長さを測り、太陽の南中高度を調べるもの。写真3は、天体の位置を測るもの。中国古来の渾天儀に、春海が工夫を加え、環の数を3つに減らしている。

澁川春海は、日本人として初めて星図を作った人物でもある。写真4は、中国伝来の星図に、春海自身の観測による61座308星を付け加えたもので、春海が新たに加えた星は青点で示される。

写真2は保井算哲著 安倍泰福校『貞享暦』写〈請求記号 206-11〉、写真3、4は澁川春海編『天文瓊統』写〈請求記号 139-41〉より。

ダイナミックな図書館： アクセス、発展、変化

世界図書館・情報会議 第81回国際図書館連盟 (IFLA) 年次大会

IFLA は、1927年に創設された図書館および情報サービスに関する世界最大の組織です。テーマ別に設けられた40以上の分科会や、資料保存、著作権等法律問題といった戦略プログラムなどを通じて世界の図書館界の様々な課題に取り組んでおり、毎年、世界各国で大会を開催し、活動報告、意見交換や交流活動を行っています。

今年のIFLA大会は「ダイナミックな図書館：アクセス、発展、変化 (Dynamic Libraries: Access, Development and Transformation)」のテーマのもと、8月15日から21日にかけて南アフリカ共和国のケープタウンで開催されました。3,190名が参加し、参加者数の上位3か国は南アフリカ1,360名、米国299名、ドイツ99名で、日本からは国立国会図書館からの代表団6名を含む28名が参加しました。

当館の代表団は、各分科会によるセッションやサテライトミーティングにおいて、報告や参加者との意見交換を行いました。また、当館職員が常任委員等を務める政府機関図書館分科会、議会のための図書館・調査サービス分科会、資料保存分科

会、資料保存戦略プログラム、書誌分科会、情報技術分科会、児童・ヤングアダルト図書館分科会では、常任委員会やビジネスミーティングに出席して今後の活動についての協議に加わりました。

また、8月18日には、世界の国立図書館長が集う2015年国立図書館長会議(CDNL)が開催され、網野光明副館長が館長代理として出席しました。

8月19日に行われた総会ではIFLAの活動報告等があり、翌20日に行われた閉会式では、ドナ・シーダー新会長が就任演説を行い、急速に変化する世界に応じ、図書館も様々なレベルにおいて変化のための行動を起こしていこうと呼びかけました。また、2017年の大会がヴロツワフ(ポーランド)で開催されることが発表され、続いて2016年の大会開催地コロンバス(米国・オハイオ州)による招待挨拶がありました。

本稿では、当館代表団が参加した会議、分科会などについて報告します。

(国立国会図書館 IFLA

ケープタウン大会代表団)



8月18日に2015年国立図書館長会議(CDNL: Conference of Directors of National Libraries)¹が南アフリカ国立図書館の施設である「本のセンター」(Centre for the Book)で開催され、45か国から53名の代表が参加しました。当館からは網野光明副館長が館長の代理として出席しました。

今回は、CDNL議長であるカイ・エクホルム・フィンランド国立図書館長の司会で、「国立図書館はデジタル戦略でいかに成功するか」という会議テーマの下、報告や事例紹介が行われました。

英国図書館長の発表は、新ビジョン「Living Knowledge」²の6つの目標の紹介を中心とするものでした。また、変化していく図書館の役割を考える上でのキーワードとして、データ、オープン化、人のつながり、空間などが挙げられ、中でも英国図書館の来館利用者は増加している、デジタル時代にあっても物理的空間を提供することに継続的な価値があるということが強調されていました。続いてフランス国立図書館長から、①公的需要と保存の観点から選定したものを、②重複や欠落なく、③館種にとらわれない連携協力によって、デジタル化し資料集成を生み出していくというフランス国立図書館のデジタル戦略と、実施している各種の事業の紹介がありました。また、他機関との連携協力の中で国立図書館がリーダーあるいは触媒の役割を果たしていくことが重要と述べました。

午後は、デジタルデータの提供に関して、世界の動向・事例紹介が

ありました。アフリカ図書館協会事務局長からは、デジタル戦略構築・実施における方針とチェックポイントについて、欧州研究図書館協会(LIBER)会長からは、オープンサイエンス推進のためのロビー活動等について報告がありました。また、シンガポール国立図書館からは、ユーザー・データの分析によるサービス・広報の改善の取り組みについて報告があり、来館利用者をビデオ撮影してプロファイリングするという方法が紹介されました。この方法は日本の図書館では実施が難しいと感じましたが、他国の参加者からも驚きをもって受け取られたようでした。

資料のデジタル化やデジタルデータの収集・保存・提供にどう取り組むかという近年における国立図書館の最大の課題について、各国の状況を確認し、情報共有する会議となりました。(佐藤)

¹ <http://www.cdnl.info/>

² 英国図書館長は、2015年6月に国立国会図書館で「Living Knowledge」を紹介する講演を行いました。概要は本誌654(2015.10)号をご参照ください。

国立図書館長会議 (CDNL)



議会図書館サービス —その変化と発展



議会のための図書館・調査サービス分科会（議会図書館分科会）は、年次大会本会合でセッションを実施するとともに、独自のプレコンファレンスを開催することを恒例としています。筆者はこのプレコンファレンスに参加し、また本会合では、議会図書館分科会主催セッションで報告を行いました。

議会図書館分科会第31回プレコンファレンスが開催されたのは、ケープタウン市街の中心に位置する南アフリカ議会議事堂です。南アフリカ共和国では首都機能が分散しており、行政府はプレトリア、司法府はブルームフォンテン、そして立法府は今回のIFLA年次大会が開催されたケープタウンに置かれています。

8月12日から14日まで開催された今回のプレコンファレンスのテーマは「議会図書館・調査サービスの発展、変容及び協力」(Development, Transformation and Co-operation in Library and Research Services in Parliaments)で、約40の国、地域、国際機関から約140名の参加がありました。世界各国の議会や議会図書館から、サービスの在り方、議会外部の利害関係者や国民との関わり、将来へのビジョンなどのテーマについて報告がなされ、質疑応答も活発に行われました。各国とも歴史的経緯や現在の業務内容などに違いはあるものの、急激に変化する情報環境に適応し、サービスの充実を目指して人材育成を図りつつ、議員の満足度をより高めるよう努力を重ねている様子が印象的でした。

開催国である南アフリカでも議会図書館の改革が進んでいます。新聞や雑誌のデジタル版や各種情報をオンラインで議員に提供しており、遠隔地でもパソコンやタブレット端末などからこれらの情報資源にアクセスすることができます。将来は議会資料や歴史資料のデジタル化を一層推進するとの方針で、議会図書館の情報センターとしての機能拡大が期待されています。

プレコンファレンス終了後は舞台をIFLA年次大会に移し、筆者が常任委員を務める議会図書館分科会の常任委員会に出席し、また分科会主催のセッション「議会図書館：21世紀の挑戦に適應するための進化」で、国立国会図書館が衆議院・参議院と協力して開発した「国会会議録検索システム」について、議会情報の市民への発信という視点を中心に報告を行い、多数の質疑やコメントが寄せられました。多くの国の議会図書館・調査サービス関係者と意見交換を行い、問題意識を少なからず共有することができたことは、非常に貴重な機会となりました。(奥山)

IFLA では、各種図書館やサービスに関するガイドラインや、書誌レコードの機能要件 (FRBR) 等の「標準」類の新規策定や改訂が毎年のように行われており、それらは各専門分野における IFLA の活動の根幹をなす、目に見える成果です。8月19日に、IFLA 戦略プログラムの一つで、IFLA 標準類の維持管理についてアドバイスし、その質と認知度を高める活動をしている IFLA 標準化委員会の主催で「国際図書館コミュニティにおける標準化のインパクト」と題したセッションが行われました。

最初にランドリー委員長 (スイス国立図書館) から、様々な機関が各種の標準を策定している中で、IFLA 策定の標準は果たして必要か、役に立っているのかという問題意識の下、標準化委員会が行った IFLA 標準についての調査の報告がありました。結論としては、今回の調査では十分な分析結果は得られず、さらに詳しい調査をするためのタスク・フォースの設置や、各分科会での個別の調査をすべきというものでした。たとえば、IFLA のガイドライン等がどれくらいダウンロードされているかの調査結果が紹介されましたが、今回の調査ではダウンロードされたガイドラインがどう使われたかまでは調査できなかつたため、ダウンロードする際に簡単なアンケートに答えてもらうという案が提示されました。フロアからは、10年以上前に策定された古いガイドラインがいまだにダウンロードされているという結果について、公表の仕方にも

工夫が必要ではないかとの意見が出されました。

そのほかには、UNIMARC と MARC21 を比較した報告、ISBD の利用についての調査報告、今年創設 40 周年を迎える ISSN ネットワークの歴史を振り返る報告等が行われました。

このセッションには多くの聴衆が集まり、標準化委員会の取り組みに対する関心の高さがうかがわれました。(佐藤)

標準化委員会 セッション

ケープタウンとお天気

ダウンジャケットかパーカーか?ケープタウンへの出張準備で最後まで迷ったのが服装でした。南半球に位置するケープタウンの8月は冬。インターネットで調べると最低気温は10℃を下回るようですが、日中は15~20℃。冬というより日本の3月下旬~4月の気候かと推測し、結局薄いパーカーを持ってケープタウンへ。結果、滞在期間の前半は曇りがちの天気でパーカーでは少し肌寒く、後半は快晴で気温が20℃を越え、外は上着がいらぬ暖かさでした。ケープタウンの天気は1日のうちでも変わりやすいそうで、ケープタウン市民は町の象徴であるテーブルマウンテンにかかる雲を見て、この先の天気を知るのだそうです。また、風が強いことでも有名で、テーブルマウンテンの頂上に登るケーブルカーも強風のためしばしば運行停止になります。大西洋に面した海岸沿いの道では、防風林が陸側に向かってまるで盆栽のように曲がっていて、海から吹きつける風の強さを物語っていました。(佐藤)



デジタル時代の 図書館と法と倫理

著作権及び法的諸問題委員会
等合同セッション

8月18日に著作権及び法的諸問題（CLM）、情報アクセスと表現の自由（FAIFE）の2つの委員会の合同セッション「アクセスの倫理—デジタル環境における著作権、ライセンス契約、プライバシーを探る」が開催されました。取り上げられたトピックはマラケシュ条約、図書館とプライバシー、忘れられる権利の3つです。いずれのトピックも、筆者が担当している電子図書館事業に関わりが深いものであり、大いに参考になりました。

マラケシュ条約は、視覚障害者等による著作物へのアクセスおよび利用を促進することを目指すもので、利用しやすい形へ著作物を変換し、国内、さらには国外の視覚障害者等へ提供することについて、各国に法制化を求めています。2015年10月現在、日本は署名していませんが、署名・批准に至る国も増えてきており、その1つであるカナダから事例の報告がありました。

図書館とプライバシーについては、利用者の情報、貸出・入退館・アクセスの情報、監視カメラの記録、法執行機関からの開示請求といった諸側面があるところ、図書館員の倫理綱領（code of ethics）を踏まえた対応、利用者への啓発活動などが必要であるとの指摘がなされました。

忘れられる権利（the right to be forgotten）は、個人情報掲載されているウェブページへのリンクの削除を、検索エンジンに要求できる権利を指します¹。2014年に欧州司法裁判所による裁定で認められ、EU各国での統一的な運用のためのガイドラインも出されましたが、Googleなど検索エンジン運営企業との認識の相違もあり、EUの法制化作業も難航しています。このような動向紹介の後、EU圏外も含め国際的に適用され得る権利なのか、そもそも「個人情報」を統一的に定義できるのか、図書館を含む検索エン

劇「ヒュパティア」

8月18日の本会議では、古代アレクサンドリアに実在した女性哲学者・数学者ヒュパティア（Hypatia）をテーマにした劇が行われました。

知・真理を追究する姿勢がキリスト教徒の反感を買い、牡蠣の殻で切り裂かれて惨殺されたヒュパティア。そのヒュパティアが、「墮落した」書物の破棄に抵抗したかどで図書館員が公開処刑される世界に甦ります。民衆の意思であるとして、図書館員を糾弾しながら処刑のニュースを伝えるキャスターを、アレクサンドリア図書館の文書の保存にも尽力したヒュパティアが諭します。今ある世界は何によって成り立っているのか？知とは？真理とは？ヒュパティアの問いかけは続きます。キャスターは心が揺らぎながらも、次々とニュースを伝えます。

「保存されていた書籍を燃やしましたが、実は、図書館員がデジタル化していました。」

「デジタル媒体を破壊しましたが、実は、図書館員がクラウドに保存していました。」

シリアスな劇なのに、会場は大爆笑です。

最後はヒュパティアによる謎かけにより、キャスターの改心が暗示されて幕となりました。この劇の脚本は、ケープタウン大学で図書館情報学の講師を務めているヒッグス（Richard Higgs）氏によるもので、氏がデジタル保存をテーマとした別セッションで盛んに質問をしていたことと相まって、大変印象に残りました。（村上）

ジン以外のサービスへも拡張される可能性はあるのか、表現の自由や情報の保存と個人情報保護とをどのように両立させていくのかといった点で、忘れられる権利の動向に図書館としても注視していく必要があるという指摘で締め括られました。

なお同日には、両委員会各々の単独セッション「危機の時代の図書館情報職の役割」(FAIFE)、「デジタルコンテンツの法的整備状況」(CLM)も開催され、多くの参加者を集めていました。技術の進歩が著しいデジタル時代に、図書館が適切に対応していくために、両委員会の果たす役割が高まっていることが実感されました。(村上)

1 今岡直子. 「忘れられる権利」をめぐる動向. 調査と情報: Issue Brief. (854), 2015. 3.10
http://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_9055526_po_0854.pdf?contentNo=1



ヒュパティアがニュースキャスターを諭す場面



終幕後のインタビュー。左端が脚本家のヒッグス氏。

故マンデラ大統領と毛布

世界で最も有名な南アフリカ出身者といえば、おそらく、故マンデラ大統領(Nelson Mandela, 1918 ~ 2013)でしょう。人種隔離政策に対して自由、平等を求めて闘い、また政策撤廃後も人種間の和解に腐心したマンデラ氏は、現在も南アフリカの人々に慕われており、ケープタウンでも街中のそこかしこに、その優しい笑顔が描かれていました。

筆者はそのマンデラ氏が、政治犯として収監されていた27年間のうち18年間に過ごした、ケープタウン沖合のロベン島を訪れました。政治犯収容所は現在、ロベン島博物館の管理下で保存されており、元収監者のガイドのもと、見学することができます。筆者が参加したツアーのガイドの方も、18歳から24年間も収監されていたといい、かつてのご自身の体験を、時には冗談も交えながら、毅然と語っていました。マンデラ氏のようなリーダー格の政治犯は、2~3m四方の狭い独房に収監され、粗末なマットと2枚の毛布だけで、寒い冬を越さなければならなかったそうです。

このような悲惨な歴史を伝えていくために、ロベン島はユネスコ世界文化遺産に登録されており、元収監者による「語り」のほか、記録文書をデジタル化して継承する取り組みも進められています。そして近年では、さらに別の形で記憶を伝えていく試みも行われています。マンデラ氏が社会正義のために費やした67年間にちなみ、みんなで67枚の毛布を編み、ネルソン・マンデラ・デー(7月18日)に、恵まれない人々に寄付するというプロジェクトです*。2014年1月に始まったこのプロジェクト、Facebookなどを通じて瞬く間に広がり、わずか半年で6,000枚を超える毛布が集まったそうです。

IFLA大会8月17日の本会議でも、このプロジェクトの創始者が講演したほか、みんなで毛布を編むブースが展示会場内に設けられ、多くの参加者を集めていました。

毛布は、ロベン島でのマンデラ氏の苦闘の象徴であり、人々を暖かく包む安心の源でもあります。記憶の継承と社会貢献が一体となったこのプロジェクトの、さらなる広がりが期待されます。(村上)

* <http://www.67blankets.co.za/>



左上) ロベン島での、元収監者の方による説明の様子。ここは元雑居房で、中央にあるのは寝床代わりのマット。
 左下) マンデラ大統領のようなリーダーが収監されていた独房。
 右上) IFLA会場に設けられた、みんなで毛布を編むブース。左側にはマンデラ氏を描いた毛布も見える。

変化する全国書誌

書誌分科会 ほか

今年の書誌分科会のオープンセッションは「変化する全国書誌：電子資料の納本制度に関連して」をテーマに8月17日に開催されました。増加する電子書籍や電子雑誌などのオンライン資料、インターネット資料の全国書誌への収録と、その前提となる収集を支える納本制度の整備は、各国ともに大きな課題となっています。

フランスからは、電子書籍の収集・整理・提供の一連の作業フローについて発表がありました。電子書籍とともに納入される代表的な出版流通メタデータであるONIX¹フォーマットのメタデータが、フランス国立図書館内で自動的に目録レコードに変換され、それに目録作成者が情報を付加する仕組みとなっています。

スウェーデンからは、オンライン資料の取込み、アーカイブ用フォーマットへの変換、メタデータの追記、保存までを扱う新たなデジタルアーカイブシステム「Mimer」について紹介がありました。アーカイブ用に処理されたメタデータは自動的にMARC21フォーマットに変換され、スウェーデン総合目録LIBLISのレコードとして作成されます。同時に、既存の別媒体の資料との重複調査や所蔵情報の追加も自動的に行われます。しかし一方で、LIBLISシステムそのものの再構築に向け、MARCフォーマットから脱却してLinked Dataをベースにした全く新

しいシステムを志向しているとの報告もありました。

南アフリカとチェコからもそれぞれ、納本制度の変遷や現行のシステムおよび体制についての紹介がありました。発表後の議論では今後の課題として、従来の印刷資料等と比較して急増するオンライン資料を全国書誌に収録する上で、許容できるメタデータのレベルや、収録対象外とする資料の明確化などにさらなる検討が必要であること、オンライン目録からシームレスに提供することなどがあげられました。

15日と18日に開催された書誌分科会常任委員会では、2009年に刊行された全国書誌に係る指針の改訂と、各国の全国書誌の現況が簡便に把握できる全国書誌登録簿の拡充を中心に議論しました。指針の改訂版“Best Practice for National Bibliographic Agencies in a Digital Age”は、作業途中ではありますが書誌分科会のウェブサイトすでに掲載されています²。タイトルにベストプラクティスとあるように、指針としてだけでなく、各国の事例集としても使用できるものを目指しています。この改訂に向けての事例収集とも連動させながら、全国書誌登録簿³の新規登録や既存データのアップデートを行い、さらなる充実を目指していくことになりました。

また、書誌分科会は、関連の深い目録分科会および分類・索引分科会と合同して、今年の6月にニュースレター*IFLA Metadata Newsletter*⁴を創刊しました。国際的な書誌調整にかかる最新情報をまとめて把握できる内容となっており、常任委員会

では、ニュースレターの今後の方向性について活発な意見交換が行われました。

関連するIFLA分科会及びVIAF評議会の動向

そのほか、関連するIFLA分科会に参加し情報収集に努めました。目録分科会では、『国際目録原則覚書』(ICP)の改訂作業を進めているグループから、今年行われたワールドワイドレビューの結果と今後の進め方の報告があり、今年末には最終版を提示する予定とのことでした。また分類・索引分科会で進めているジャンル形式典拠の調査研究に、目録分科会との共同委員長体制で取り組んでいくことが決まりました。

IFLA大会前日の14日にはバーチャル国際典拠ファイル(VIAF: The Virtual International Authority File)評議会が同じケープタウン市内で開催され、こちらにも出席しました。

VIAFの収録典拠データ数は現時点で約5,300万件(クラスター数は2,900万件⁵)となりました。VIAFでは収録数の拡大だけでなく様々な改善を進めています。たとえば、英語版WikipediaからWikidataのページへリンク先を変更することで、各言語版のWikipedia記事にリンクすることができるようになったり、同じOCLCの提供サービスであるWorldCatの書誌レコードから著作レコード(統一タイトル)と表現レコード(翻訳タイトルと翻訳者)を生成して翻訳書のグルーピングを行ったりしています⁶。ほかにも団体名典拠や地名典拠のマッチング精

度の向上、クラスタリングやインデキシングに有効な FAST⁷ を活用した地名の同定作業などについて、報告がありました。また、新たな目録規則 RDA の適用により名称典拠として VIAF に収録されるようになった、作品の登場人物など架空の人物 (Imaginary Characters) の扱いや、米国議会図書館の名称典拠ファイル (LCNAF) を RDA 適用に変換するプロジェクトなどが議題に上がりました。

今回の評議会で、2013 年から継続検討されていた「VIAF 参加基準」が確定しました。これは、データ提供に加えて評議会への参加資格を持つ国立図書館などの VIAF contributor と、データ提供のみの Other Data Provider に分けて、それぞれの参加機関となるための要件等を定めたものです。

当館は 2012 年 10 月に東アジアから初めて VIAF に参加した機関で、評議会メンバーでもあります。今年新たに参加した台湾とアイルランドのデータが VIAF に追加され、さらに韓国・カナダ・ロシア・チリからの参加も正式に決定しました。これで VIAF 参加機関は 37 機関となりました。当館は非ラテン語圏からの参加機関として、今後は台湾や韓国などの機関とも協力しながら、VIAF を通じて国際的な典拠データ調整の場へ参画していきたいと思えます。(津田)

1 出版物流通に関する標準化団体 EDItEUR (European Book Sector Electronic Data Interchange Group) で管理されている書籍流通用のメタデータ。

2 <http://www.ifla.org/node/7858>

3 <http://www.ifla.org/node/2216>

4 <http://www.ifla.org/files/assets/classification-and-indexing/newsletters/metadata-newsletter-201506.pdf>

5 個人、団体などの同一実体に対する、標目形の異なる各言語の典拠データを同定してまとめたかたまりのこと。

6 VIAF 上で「xR」レコードとして示されています。柴田洋子「OCLC の多言語書誌構造化の取組み—利用者にとって最適な表示を目指して」『書誌情報ニュースレター』2014 年 4 号 (通号 31 号) 参照。

7 Faceted Application of Subject Terminology. LC 件名標目表 (LCSH) を簡易なフォーマットで表現してウェブ上で利用しやすい形にしたもの。



ケープ半島—喜望峰とアフリカペンギン

アフリカ大陸の南端、喜望峰。ポルトガルの航海者バルトロメウ・ディアスによって発見され、ヴァスコ・ダ・ガマがインド航路を開拓した時に経由した岬です。大西洋とインド洋がぶつかるこの場所は非常に海が荒れ、多くの船が沈んだことから、ワーグナーのオペラの元にもなったフライング・ダッチマン (さまざまなおランダ人) の伝説も生まれました。東に位置するケープポイントから望む喜望峰は、気を抜くと吹き飛ばされそうな激しい風の中、目を離すことができないほどの壮大な景色でした。

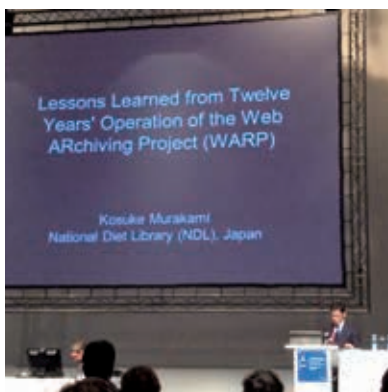
同じくケープ半島にあるボルダーズビーチにはその名もアフリカペンギン、別称ケープペンギンのコロニーがあります。砂浜や林の中に巣をつくり、そのおぼつかない足取りで人々の目を楽しませています。体長約 65cm、愛らしい動きとは裏腹に、ロバのような鳴き声によってジャッカス (雄ロバ) とも呼ばれています。

今年の IFLA 大会のロゴをご覧ください。よく見るとペンギンがくちばしを上に向けて胸を張っています。これこそケープペンギンです。もとはダイアール島から海を渡ってフォルス湾にやってきた冒険者たちです。2000 年には海上に流出した重油による汚染被害などもあり、絶滅危惧種に指定されていますが、現在南アフリカでは、保護活動に取り組んでいます。(津田)



ウェブアーカイブ、 この10年の到達点

資料保存分科会・
情報技術分科会合同セッション



8月17日に開催された合同セッション「ウェブサイトの収集・保存・アクセス、この10年の発展－誰でもできる!？」¹において、当館から筆者が、インターネット資料収集保存事業（WARP）の歩み、システムの工夫、ほかのシステムや機関との連携、課題などについて発表しました。

このセッションは、小規模な図書館がウェブアーカイブを始めるのに役立つようなツールの活用事例や、課題解決の事例を共有するという趣旨で開催されました。日本、チリ、クロアチア、スロベニアの各国立図書館による国単位のウェブサイト収集、カナダ・アルバータ大学、米国・イリノイ大学による特定主題のウェブサイト収集、Internet Archiveが図書館や文書館向けに提供しているウェブサイト収集サービスと、数多くの事例が集まり、さながらウェブアーカイブのショーケースといった感じになりました。

当館では現在、公的機関のウェブサイトや制度に基づいて網羅的に収集しているほか、私立大学やイベント、電子雑誌等のウェブサイトについても、許諾に基づいて選択的に収集しています。その量は1か月当たり15TBにも及んでいます。この収集を支える仕組みとして、オープンソースソフトウェア（OSS）を活用して差分での収集等を行っていること、また試算の結果、これらOSSの活用により約85%ものデータ量を削減できていることを紹介したところ、多くの方から驚きの声をいただきました。また当館から、動画やSNSなどの収集が、技術的・法的に難しいことを課題として報告しま

したが、ほかの発表者からも同様の認識が示されました。

このほかの発表では、国内の著名人等のTwitterを収集しているスロベニア国立図書館の事例や、研究利用のために収集したデータを使いやすく加工しているInternet Archiveの事例、利用者に本物のウェブサイトと間違われまいよう収集から180日後に公開しているイリノイ大学の事例などが関心を集めていました。

インターネット上には、これまでは印刷物の形で公表されていたような情報が発信されているほか、現在を生きる人々が書き綴ったり、撮影したり、交流したりした記録もあります。これらを保存するウェブアーカイブの重要性は、時が経つにつれ、自然と高まっていきます。このセッションには、まだウェブアーカイブがそれほど普及していないアフリカ各国からも多くの方が参加されました。それぞれの発表をヒントにして、また各機関が連携して、ウェブサイトの保存が少しでも普及・進展することを願っています。（村上）

¹ <http://library.ifla.org/view/conferences/2015/2015-08-17/561.html>

情報技術分科会等 合同セッション



8月17日に「情報へのアクセスを容易にする技術－発展を支える図書館」と題する、情報技術分科会、公共図書館分科会、アジア・オセアニア分科会、議会図書館分科会の合同セッションが行われました。

このセッションにおいて当館から筆者が「国立国会図書館のデジタルコンテンツ送信サービス」と題する発表を行いました。当館の図書館向けデジタル化資料送信サービスについて、サービスを開始した経緯、送信対象資料の選定手続、サービスの提供方法と利用状況、今後の課題等について報告し、フロアからは参加館での利用手続について質問がありました。そのほかには、インドから農民に対する農業技術関連情報リテラシー・キャンペーンについて、ナミビアから情報格差を埋めるための貧困地域での移動図書館活動について、また、インドネシア国立図書館からは国内の地方の図書館との連携による電子図書館構築の取り組みについての報告が行われました。人々のニーズや国の状況に応じて情報アクセス支援を行う図書館の多様な取り組みを紹介したセッションでした。(佐藤)

Linked Dataの普及 に必要なことは？

セマンティックウェブ特別研究会

8月19日のセマンティックウェブ特別研究会のセッション「図書館のLinked Data」は、グループディスカッション形式で行われました。Linked Dataをさらに普及させていくために、図書館は、またIFLAはどのような取り組みを行っていけばよいのか、という課題について、戦略、アクセス、ツール、目録作成の4つの観点でグループを作り、議論するという形式です。

筆者はアクセスとツールのグループに参加しましたが、なるほどという意見がたくさん出ました。

- ・図書館員がLinked Dataについて十分な知識を得る必要があり、そのためには無料のオンライン研修が行われると良い。

- ・Linked Dataを扱えるオープン

ソースソフトウェア (OSS) のツールが必要である。OSSは無償で誰でも利用できることから、普及に有効であり、かつ、開発途上国の若者に就業機会を提供することにもつながる。

- ・Linked Dataの活用には、コンピュータ言語やネットワーク通信の知識が求められることが多く、わかりづらいものとなっている。誰にでも使いやすい形で提供しているような優良事例の共有が必要。

- ・様々なデータにつながると言っても、それらの品質はまちまちである。品質や来歴の明示が必要である。

一方で目録作成のグループからは、Linked Dataならではのメリットがわからない、わかりづらいという意見も出ていました。メリットをわかりやすく提示することで、より多くの図書館員に意義を理解してもらおうところから始める必要があるのかもしれない。(村上)

文化遺産の保存と デジタル保存

資料保存戦略プログラム、
資料保存分科会

今大会、IFLA の新しい戦略計画案 (Strategic Directions 2016-2021) が発表になりました。その戦略目標の第3に文化遺産 (Cultural Heritage) があげられています。この目標に最も関わりが深いのが、資料保存を担当する資料保存戦略プログラム (Strategic Programme on Preservation and Conservation、略称 PAC) と資料保存分科会です。

PAC ビジネスミーティング

PAC は世界各地の国立図書館に置かれた PAC センター (当館はアジア地域センター) のネットワークによって運営されています。2013 年までは各地域センターの活動を調整する国際センターがフランス国立図書館 (BnF) に置かれていましたが、予算削減により BnF が国際センターから撤退し、2014 年から IFLA 本部が国際センターの役割を担うことになりました。今回 IFLA 本部の新しい方針により、今まで地域ごとに置かれてきた PAC センターに加えて、専門分野に特化した PAC センターも設置されることになり、大会直前にスリランカ国立図書館が熱帯気候、虫・カビ等の害に特化した PAC センターに任命されました。PAC ビジネスミーティングでは、このほか Risk Register¹ という文書遺産の登録のためのデータ

ベースについて紹介されました。図書館だけでなく個人が所有する文書遺産をも登録するもので、情報は非公開とし、天災や紛争時にその該当地域の文書遺産の情報をユネスコとブルーシールド²に提供することを目的としています (写真は Risk Register のリーフレットの表紙を飾る、破壊されたサラエボの国立図書館)。

資料保存分科会

セッションは他分科会と合同で2回開かれました。1つは「ウェブアーカイブの10年」³を、もう1つはナレッジカフェ形式 (少人数でテーブルごとに分かれて討議する) で「政府・議会情報の保存とアクセス」をテーマにしたものでした。この2つのセッションともデジタル情報の保存がテーマの柱となっていました。今後、デジタル情報の保存が現物資料の保存と合わせて資料保存の活動の大きな柱となることを実感しました。(大島)

1 <http://www.ifla.org/risk-register>

2 戦争や災害から文化財を保護するための標章の通称であり、またその活動のために設立されたブルーシールド国際委員会の名称でもある。

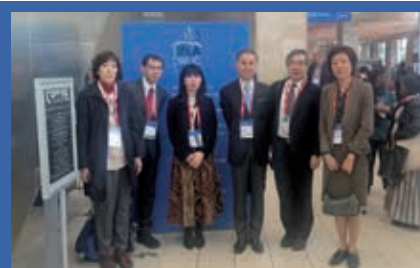
3 詳細は p.12



Vedran Smailović plays his cello in the destroyed National Library, Sarajevo (Bosnia-Herzegovina) Photo : Mikhail Evstafiev

国立国会図書館 IFLA ケープタウン大会代表団

- 網野 光明 (副館長)
- 佐藤 従子 (総務部支部図書館・協力課長)
- 奥山 裕之 (調査及び立法考査局財政金融課長)
- 大島 薫 (収集書誌部主任司書)
- 津田 深雪 (収集書誌部収集・書誌調整課)
- 村上 浩介 (関西館電子図書館課)





『関東大震災写真帳』 <請求記号 YKA11-L1>

今回は、当館がわずかながら所蔵する写真帳の中から1900年代前半ごろに作成された、アルバム形態の写真帳を取り上げます。豪華な装丁のものもあれば簡素に製本されているものもありますが、表紙を開けば、当時の出来事や風景の一瞬がよみがえり、記録資料として貴重なものとなっています。

図書別室の 資料から 第2回 写真帳



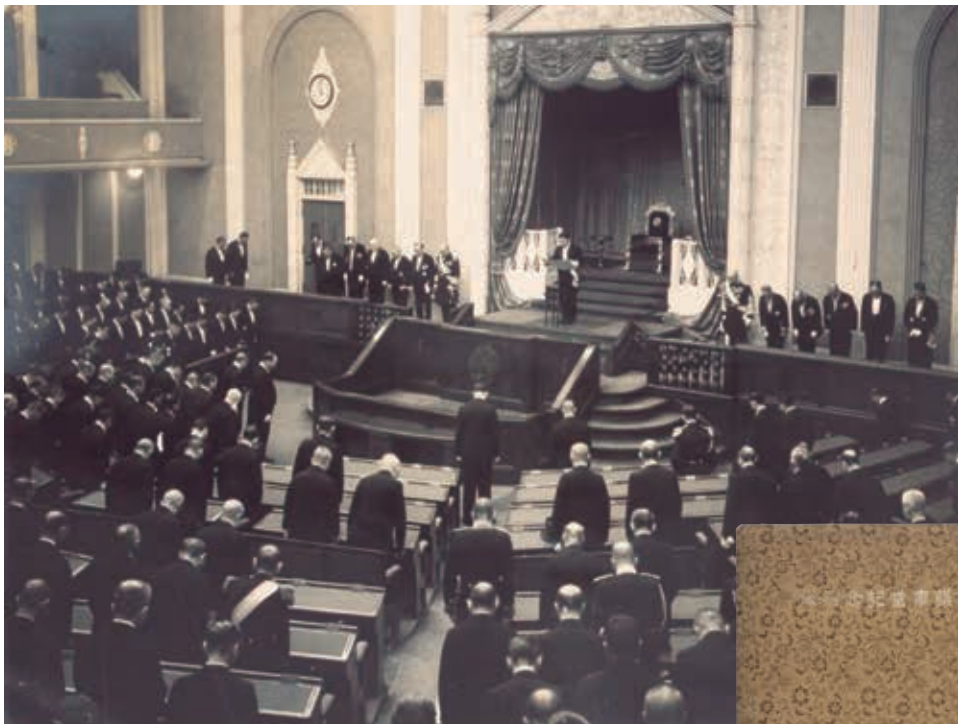
『支那事变写真帖』 <請求記号 YKA11-5>

『仮議事堂記念写真』（下図）は、現在の国会議事堂の建設前に帝国議会議事堂として使用されていた第三次仮議事堂の写真帳です。1890年に竣工した帝国議会議事堂は、2度の焼失の憂き目に遭い、1925年に第三次仮議事堂が建設されました。1936年の新議事堂の竣工に伴い役目を終えた仮議事堂を記念して作られたこの写真帳は、歴代議長の写真にはじまり、閉院式、仮議事堂惜別午餐会など合計70枚の写真によって仮議事堂の在りし日の姿を伝えています。

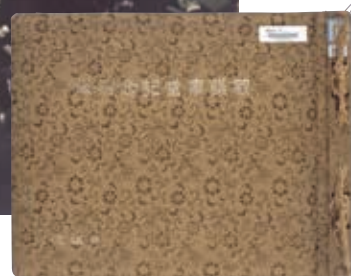
『支那事変写真帖』（前ページ下図）は、1937年盧溝橋事件を契機として起きた日中戦争を記録した読売新聞社発行の写真帳です。右側のページに戦闘の様子を伝える文章があり、左側のページにはA4サイズの写真が貼りこまれています。合計50枚におよぶ写真は、戦闘風景を間近に写しており、冒頭の序文「勇躍死線を越えて撮影した清粋の結晶」からも

従軍記者によって命がけで記録されたものであることがうかがえます。

なかでも印象的なのは、1923年9月1日に発生した関東大震災を記録した写真帳です。92年前の震災後の風景は、東日本大震災を経験したわたしたちにとって、過去の出来事とは思えない切実さがあります。マグニチュード7.9を記録した震災による甚大な被害は、当時出回り始めていたクラップカメラと呼ばれたハンドカメラによっても多く撮影されたようです。『関東大震災写真帳』（前ページ上図）には、震災の生々しい被害のありさまが収められています。地震による倒壊で一面瓦礫の山と化し、火災により焼け野原となった東京の街、万世橋駅、三越呉服店、吾妻橋など当時東京のシンボルとして親しまれていた建築物の変わり果てた姿、人的被害が特に甚大であった被服廠跡や吉原の弁天池などでの凄惨な光景などが記録されています。被害の中でも、浅草の凌雲閣の倒壊は



『仮議事堂記念写真』<請求記号 YKA11-19>



特に人々に強い衝撃を与えたようです。1890年に建てられた東京初の高層建築物である12階建ての凌雲閣は、震災により折れて倒壊、その後解体のために爆破されました。『東京大震災写真帖 第3輯』（右図、下図）には、爆破の様子の一部始終が記録されており、当時の人々の注目の高さうかがえます。

これらの震災を記録した写真帳には震災直後の人々の生活の様子も収録されています（下図）。バラックでの暮らしや、露店を広げる人々、尋ね人や避難先を伝える多数の貼り紙が付けられた銅像、震災後の混乱の中で警察署に検束された人々、自警団から押収された武器などの写真を見ることができます。これらの震災写真帳に収録された写真の一部は、絵はがきとしても出回り、上野公園などの路上で販売され買い求める人々も多かったようです。

震災写真は、被害そのものを記録しているだけでなく、当時の人々が震災をどのように見つめていたのか、その眼差しをも物語っています。見慣れた風景が一変してしまった様子を人々はどのように眺め、何を思って写真に収めたのでしょうか。想像することしかできませんが、深い慰霊の心、人々の力強さ、復興への希望がひ



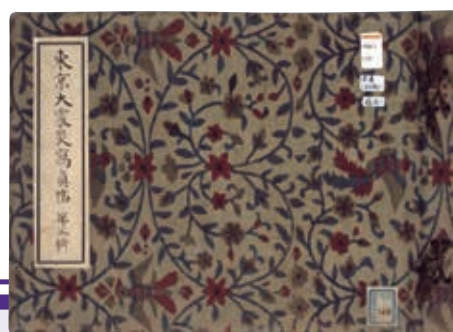
『東京大震災写真帖 第3輯』〈請求記号 YKA11-L10〉

しひしと伝わってきます。誰が何をどのように後世に伝えようとしていたのか、大災害を記録することの意義について、あらためて考えさせられます。当館が所蔵するアルバム形態の写真帳は、NDL-OPACの詳細検索画面の分類欄に分類記号「YKA11」を入力して検索することができます。それ以外の写真帳や写真集は、NDL-OPACでタイトルや著者名から検索することができます。

(利用者サービス部図書館資料整備課

山口 紀子)

古い写真をお探しの場合、「国立国会図書館所蔵写真帳・写真集の内容細目総覧一明治・大正編」(『参考書誌研究』(Z21-291)第33号)や『国立国会図書館所蔵写真帳・写真集内容細目総覧 昭和前期編』(KC711-G5)、リサーチ・ナビ (<http://navi.ndl.go.jp/>)「写真を探す(日本)」、電子展示会「写真の中の明治・大正」(http://www.ndl.go.jp/scenery_top/)が参考になります。



What's 書誌調整

第3回 典拠は大切

—Web NDL Authorities を使ってみよう!— (前編)

先生

カーネ

こんにちはワン、カーネです。ぼくの先生と、国立国会図書館（NDL）の典拠データってものについて勉強することになったよ。NDLでは典拠データを作って、ウェブで探したり使ったりできるようそのすべてを公開しているんだって！それが「国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス（Web NDL Authorities）」、略してWeb NDLA。Authorityってというのが「典拠」のことなんだって。それで、先生といっしょにこのWeb NDLAにアクセスしたら、不思議な3人の妖精たちが出てきちゃった！



<http://id.ndl.go.jp/auth/ndla>
NDLホームページ> サービス概要>
オンラインサービス一覧

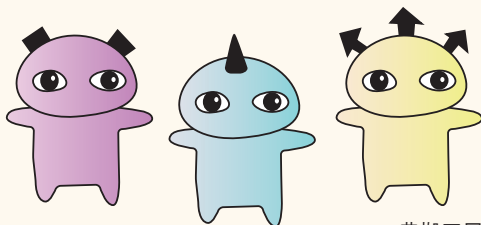
典拠データとWeb NDLA

典拠太郎 はじめまして、カーネくん。ぼくは典拠太郎。得意技は<みわける>！

典拠次郎 ぼくは典拠次郎。得意技は<まとめる>！

典拠三郎 ぼくは典拠三郎。得意技は<つなげる>！

太郎・次郎・三郎 <みわける・まとめる・つなげる>、ぼくたち典拠データとWeb NDLAの妖精、典拠三兄弟！



典拠三兄弟

カーネ び、びっくりしたワン。

先生 カーネ（そして読者のみなさん）とは初対面だったね。典拠データとWeb NDLAについて説明してもらったため、彼らを呼んだんだ。こんにちは、典拠三兄弟のみんな。今日はよろしく頼みます。

太郎 今日はぼくたちにまかせてください。

カーネ ありがとう！まず「典拠データ」って、なあに？

太郎 典拠データとは、資料の検索の手がかりとなる著者やキーワードを整理してまとめたデータです。NDLが作った典拠データをウェブで公開するサービスが、Web NDLAなのです。

カーネ ふんふん。

太郎 典拠データは大きく分けると2種類あります。ひとつが、「夏目漱石」、「小川家」、「朝日新聞社」、「松山市」、「坊っちゃん」みたいな名称典拠（個人名、家族名、団体名、地名、統一タイトル）です。そしてもうひとつが、「個人主義」、「外国留学」、「猫」みたいな、物事を表す普通件名典拠です¹。今日は、資料の著者名として用いる個人名の典拠データについて説明します²。Web NDLAの典拠データは日々増えていますが、現在登録されている典拠データおよそ119万件のうち、個人名の典拠データはおよそ84万件です³。

カーネ たくさんの人のお名前が入ってるんだね！このデータはどんなことに役立っているの？

太郎・次郎・三郎 それでは実際に、Web NDLAの典拠データの力をお見せしましょう！

<みわける>

太郎 まずぼくの得意技、<みわける>！

カーネ みわけるってどういうこと！？

太郎 カーネくんは、小説家の村上春樹さんを知っていますか？

カーネ 知ってるワン！

太郎 このひとの作品を探るときは、著者名で検索しますよね。カーネくん、この国立国会図書館サーチ（NDLサーチ）⁴で探してもらえますか？

カーネ 詳細検索の「著者・编者」の入力欄に「村上春樹」といってっど…。あれえ？このひとつで平将門の本も出しているんだっけ？



「村上春樹」の文字列だけをNDLサーチで検索した結果、『平将門：調査と研究』に注目。

太郎 実はその村上春樹さんは、小説家の方とは同姓同名の別人なんです。このやりかただと、この国文学研究者の村上春樹さんの書いた本と、小説家の村上春樹さんの書いた本がまぜこぜで検索結果に出てきてしまうんです。

カーネ 困ったワン！

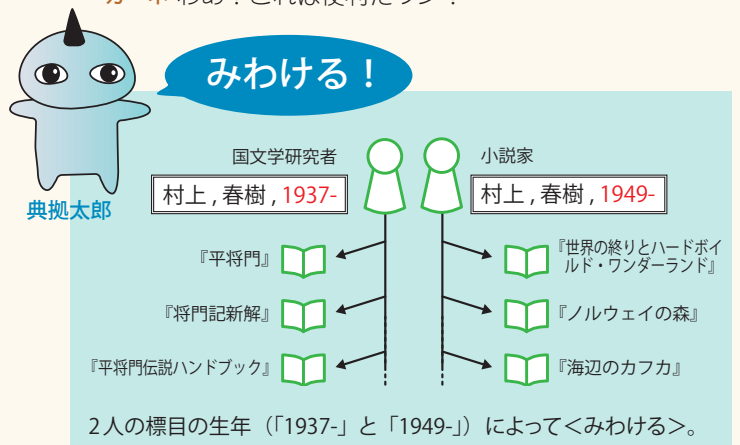
太郎 こんなときに、Web NDLAを使うと便利なんです。Web NDLA トップページ目の検索窓に「村上春樹」と入れて検索してみてください。2人の「村上春樹」がヒットします。名前のリンクをクリックして（下図①）、典拠データをふたつとも見てみましょう。典拠データ表示画面には、いろいろな

項目がありますが、その中でも「標目」に注目してください。国文学研究者の村上春樹さんの標目は「村上，春樹，1937-」（下図②）ですが、小説家の方は「村上，春樹，1949-」（下図③）となっています。それぞれの生年を名前のうしろにつけているので⁵、同姓同名の2人を区別できるのです。これが「くみわかる」の効果です。

カーネ すごいワン！

太郎 「村上，春樹，1937-」の典拠データ表示画面の右端にある「著者名検索」ボタンをクリックしてみましょう。NDLサーチで、国文学研究者の村上春樹さんの著作だけを検索することができます（下図④）。これによって、資料を探すときに「同一表記の別人」を区別できるのです。これが「くみわかる」のもうひとつの効果です。

カーネ わあ！これは便利だワン！



Web NDLAで「村上春樹」を検索



2人の「村上春樹」の典拠データ
<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00333679>
<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00104237>

Web NDLAで検索してみよう



国文学研究者の村上春樹さんの著作のみを検索できる

太郎 生年で区別がつかないときには、職業や専攻分野などによってもみわけています。

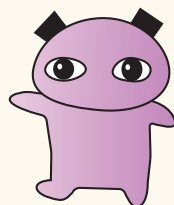
カーネ 一見同じに見えても実は違うものを、生年とかいろいろな情報でふるいわけると。これが太郎くんの得意技、<みわける>なんだね！

<まとめる>

次郎 それでは、典拠データの次の力をお見せしましょう。ぼくの得意技、<まとめる>！

カーネ まとめるってなあに！？

次郎 カーネくん、これらの本の著者ってそれぞれ誰でしょうか？



典拠次郎



カーネ えっと、人、商、の、ス、ニ…？ヤピスクエシ？

次郎 カーネくんカーネくん、右から読んでください。

カーネ あ、そっか、『ヴェニスの商人』！著者は…これは「シエクスピア」⁶？右の本は「セーキスピーア」⁷？？あれ、左は「寒格斯比亞」⁸？？

次郎 みんな同じシェイクスピアの作品ですよ。でも、さきほどのNDLサーチの「著者・編者」の入力欄に「シェイクスピア」と入れて検索したら、資料に「シエクスピア」「セーキスピーア」「寒格斯比亞」という記載しかない書誌データ（資料1

点ごとの情報）はヒットしませんよね。資料を探すときにこんな「同一人物の別表記」で混乱しないためにも、典拠データは役に立ちます。WebNDLAで今度はシェイクスピアの典拠データ表示画面を見てみましょう。

Shakespeare, William, 1564-1616	
ID	00456207
標目 <small>(Title/Label)</small>	Shakespeare, William, 1564-1616
別名 (見よ参照) <small>(See/Refer)</small>	西基斯比亞; 寒格斯比亞; シェークスピア; セーキスピーア; シェクスピア; シェークスピヤ; シェイクスピア; セキスピア; シエクスピア; シェイクスピア; ウィリアム; 沙士比阿; シエクスピヤ

シェイクスピアの典拠データ
<http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00456207>

次郎 標目は「Shakespeare, William, 1564-1616」ですが、「別名（を見よ参照）」という項目に、個々の資料から採ったいろいろな名前の表記が載っています。これで、いくつもある名前が実は同一人物を指すものだとわかります。これがひとつめの<まとめる>です。

カーネ ほんとだ！いろんな表記がいっぱいあるワン！

次郎 そして、いくつもあるシェイクスピア作品の書誌データのそれぞれにこの典拠データがひもづけられているので、名前の表記はいろいろあっても、典拠データを通じてシェイクスピアの作品をまとめて検索することができます。これがふたつめの<まとめる>です。

	羅馬修夜帳：沙吉比亞戯曲 荒林亭人、天香逸史 訳、観々堂 1886
	シェキスピーヤ新書：一名・西洋歌舞伎様本 第1冊(リヤ王) 竹内余所次郎 訳、博望社 1886
	Julius Caesar. Edited by William Aldis Wright Wright, William Aldis, 1831-1914, Shakespeare, William, 1564-1616 The Clarendon Press 1886 (Clarendon Press series)
	春情浮世之夢：露妙劇利戯曲 沙士比阿(セキスピヤ) 著、河島敬順 訳、海本館一 開、新文堂 1886
	人肉賣人殺判：西洋珍談 シェキスピーヤ 著、井上勤 訳、観々堂 1886

WebNDLAのシェイクスピアの典拠データ表示画面の「著者名検索」から遷移したNDLサーチの結果。さまざまな著者名で表記されたシェイクスピア作品を一度に検索することができる。

カーネ 一見違うように見えても実は同じものを、別表記についての情報でひとまとめにする。これが次郎くんの得意技、<まとめる>なんだね！

次郎 その通りです！ちなみに、一人がいくつものペンネームを使い分けている場合は、典拠データを別々に作っています。

カーネ 別々ななの？

次郎 でも大丈夫。それぞれの典拠データをリンクしています。中には、作家の瀬戸内寂聴さんのように、典拠データがひとりで4件あるひともいますよ⁹。相互にリンクすることで、同一人物であるとわかるようにしています。ですから、相互にリンクしている典拠データをたどれば、別々のペンネームで書かれた資料を検索することもできます。

<p>三谷 晴美, 1922-</p> <p>ID: 00711089</p> <p>題名 (日本語): 三谷 晴美, 1922-</p> <p>別名 (日本語): ばーぶる, 瀬戸内 寂聴, 1922-; 瀬戸内 晴美, 1922-</p>	<p>瀬戸内 晴美, 1922-</p> <p>ID: 00070055</p> <p>題名 (日本語): 瀬戸内 晴美, 1922-</p> <p>別名 (日本語): Setouchi, Harumi; Harumi Setouchi</p> <p>別名 (日本語): ばーぶる, 三谷 晴美, 1922-; 瀬戸内 寂聴, 1922-</p>
<p>瀬戸内 寂聴, 1922-</p> <p>ID: 00106623</p> <p>題名 (日本語): 瀬戸内 寂聴, 1922-</p> <p>別名 (日本語): 三谷 晴美, 1922-; ばーぶる</p> <p>別名 (日本語): 本名: 瀬戸内 晴美, 1922-</p>	<p>ばーぶる</p> <p>ID: 01141344</p> <p>題名 (日本語): ばーぶる</p> <p>別名 (日本語): 瀬戸内 寂聴, 1922-; 三谷 晴美, 1922-; 瀬戸内 晴美, 1922-</p>

瀬戸内寂聴さんの4件の典拠データ。相互にリンクしあっている。

カーネ 太郎くんの<みわかる>、次郎くんの<まとめる>、2人の得意技で、前よりもちゃんと資料が探せそうだワン！

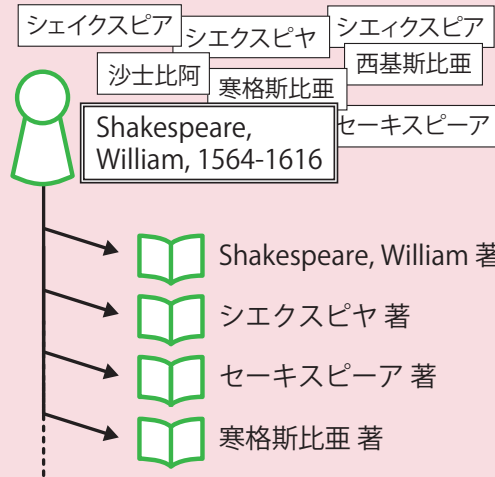
三郎 そうなんです。でも、ぼくのことでも忘れないでください！ Web NDLAの典拠データの力はこれだけじゃあないですよ。NDLの資料を探しただけではなく、ウェブの世界を通じてさまざまに役立つようになっているんです。

カーネ <つなげる>の三郎くん！それって一体…！？

残念だけど、今回はここまで。次回は典拠三郎くんが活躍するワン！（つづく）

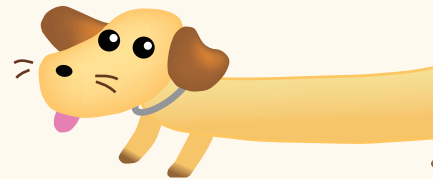
（収集書誌部収集・書誌調整課 木下 竜馬）

まとめる！



ひとつの標目「Shakespeare, William, 1564-1616」にたくさんの別表記を<まとめる>。

つづくワン！



- これに加え、件名に結合して使用する細目の典拠もあります。
- 個人名など名称典拠は、著者名としてだけでなく、資料の主題として用いられることもあります。
- 2015年9月現在のデータ数です。
- <http://iss.ndl.go.jp/>
- これらの情報は、基本的には資料や参考図書など公刊されたものに基づいています。標目の根拠は、「出典」として典拠データ中に明記されています。また、公刊された資料から判明した場合は、著者の生没年を記録しています。なお、書誌データにおける個人情報の取扱いについては、「国立国会図書館の書誌データに関する個人情報保護対策基準」（http://www.ndl.go.jp/jp/library/data/bib_personal_information201106-1.pdf）等に基づいています。
- シエクスピヤ著、文芸社編輯部訳編『ヴェニスの商人』文芸社、1929 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1121994>
- セーキスピーア作、守田有秋訳『オセロー』大川屋書店、1928 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/906048>
- 寒格斯比亜著、赤司新三郎訳『誠之鏡：哀別奇遇』品田太吉、1887 <http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/876539>
- 少女小説を書いていたころの「三谷 晴美, 1922-」 <http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00711089>、出家前の「瀬戸内 晴美, 1922-」 <http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00070055>、出家後の「瀬戸内 寂聴, 1922-」 <http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/00106623>、ケータイ小説を書いた際の「ばーぶる」 <http://id.ndl.go.jp/auth/ndlna/01141344> の4件。

国際子ども図書館アーチ棟に 児童書研究資料室が開室しました

平成27年9月17日、国際子ども図書館の新館（アーチ棟）に児童書研究資料室が開室しました。アーチ棟は6月末に完成した、その名のとおりゆるやかな弧を描いた建物です。2階に位置する児童書研究資料室も、建物のカーブに沿って書架や机が配置され、ガラスのカーテンウォール沿いに長く伸びた閲覧席のある、広く開放的な部屋となっています。ここでは、この新しい資料室についてご紹介します。

児童書研究資料室について

従来、資料室は既存棟（レンガ棟）の建物上の制約から第一・第二の二つに分かれていましたが、これらを統合し、一つの資料室としました。この資料室で資料検索から複写まで全て行うことができます。また、従来からご要望が多かった日曜日の開室を開始しました。

資料室内には、カウンター席と閲覧機の席を合わせて、54の閲覧席があります。資料の検索・請求・複写申込の作成やデジタル化資料の閲覧ができる利用者用端末は、そのうち19席に設置しています。ほかにDVD・

VHSビデオ等の映像資料の視聴席、CD-ROM等の電子資料が閲覧できる席や、マイクロ資料の閲覧席等も設けています。

なお、旧第一資料室は調べものの部屋、旧第二資料室は児童書ギャラリーとして来年度リニューアルオープンを予定しています。

資料について

児童書研究資料室は、児童書・児童文学の調査・研究のための資料室です。そのために、日本・外国の児童書に関する参考図書・研究書や、当年に国際子ども図書館で受け入れた日本の児童書、約140の国と地域の絵本、現行の日本の教科書など、約4万冊の資料を開架しています。また、読書活動推進支援コーナーを今回新たに設けました。子どもの読書活動の推進に関する国内外の資料と情報を提供しています。

ほかに小展示のコーナーもあり、現在は「国際アンデルセン賞を受賞した日本の作家と画家」をテーマとした展示などを行っています。

児童書は日本・外国合わせて約40万冊を所蔵しています。大部分が書庫にあり、端末



から請求して閲覧することができます。

これらの児童書の多くは、納本制度により国立国会図書館に納入していただいたものです。国民共有の文化的資産として、国際子ども図書館で永く保存し、利用に供していきます。

新しいサービス

新しいサービスとして、少人数のグループでの調査研究に利用していただける、グループ研究室を新たに設けました。事前予約制ですが、予約が入っていない場合は、当日でもカウンターで申し込んでいただければご利用いただけます。

さらに、視覚障害者へのサービスとして、グループ研究室を対面朗読場所として提供するほか、関西館所蔵の学術文献録音資料のうち児童書および児童書に関連する資料の、国際子ども図書館への取寄せを開始しました。平成28年度には、DAISYデータの再生が可能な端末も導入する予定です。

新しくなった児童書研究資料室へみなさまのお越しをお待ちしています。

(国際子ども図書館資料情報課)



読書活動推進支援コーナー

主に図書館奉仕、図書館活動、児童図書館、読書論、読書指導等の分類に属する国内および外国の参考図書・研究書を開架しています。

おはなし会、読み聞かせ、ブックトークなどの読書に関する活動や、児童図書館、文庫など読書に関する施設についての資料、各自治体の読書活動推進に関する計画類を設置し、各種図書館関係者や児童サービスに関わる方々に向けて情報提供を行っています。



開室日 火曜日～日曜日

ただし、国民の祝日・休日（5月5日のこどもの日は開室）および第3水曜日（資料整理休館日）、年末年始は除く。また、システムメンテナンス等により臨時休室する場合があります。

開室時間 9時30分～17時

資料請求の受付 9時30分～16時30分

複写の受付 10時～16時（後日複写は16時30分まで）

複写製品の引渡し 10時30分～12時、13時～16時30分

ご利用にあたって

入室・資料利用の際には、利用者カード(ICカード)が必要になります。登録利用者カードをお持ちでない方は、当日利用カード(ICカード)を発行しますので、資料室入口で「利用申込書」に必要事項をすべてご記入の上、カウンターにご提出ください。

国際子ども図書館に住む妖精 児童書研究資料室の移転

児童書研究資料室の開室にともない、約4万冊の資料室開架資料を、レンガ棟の旧第一資料室・第二資料室からアーチ棟の児童書研究資料室へ移転したほか、約35万冊の資料をレンガ棟書庫からアーチ棟書庫に移転しました。

写真1は移転前日の旧第一資料室です。あらかじめ移転先の児童書研究資料室の全ての書架の棚に住所代わりの番号を付し、その番号のラベルを開室最終日の閉館後に職員総出で書架に貼りました。

ラベルが中途半端な位置にあるのは、移転元の書架の棚幅は27.5cmから84cmまでとさまざまでしたが、移転先はすべて74cmであるため、それに合わせて貼付したからです。特に旧第一資料室には、天井近くまである書架があり、梯子に登り、幅を一つ一つ測り、ラベルを貼るのは大変な作業でした。

資料はラベルと共にブックトラック（本を運搬する専用のワゴン）で運び、移転先の棚に貼付したラベルと照合しながら、迷子にならないように納架しました。写真2は移転直後の児童書研究資料室です。同時期に行った書庫移転も

合わせると、作業に使ったラベルはなんと約4,000枚でした！

移転前の資料室があったレンガ棟は、明治39（1906）年に旧帝国図書館として建設された建物を改修した歴史的建造物で、利用者から「妖精が住んでいそう…」といった感想をいただいたことがありました。本当にいるのかもしれないと思うことがあります。

移転作業開始時に、「番号合わせゲームのように運んでください」「ブックトラックの本より段ボールを運びたい」と話していた移転の作業員さんが、次第に「子どもの本ってなんだかいよいよな」「この現場は楽しいな」などと話し、事前には数日かかるといわれていた資料室開架資料の移転をほぼ1日で完了させたときには、妖精の魔法はなかなかのものと感じました。

また、移転が迫る8月末に旧資料室の天井を見上げ、「この部屋が本当に好きでした。でも新館も楽しみです。」と話してくれた利用者の方が何人かいました。今思えば妖精だったのかもしれない。

（資料情報課書誌情報係 移転ラベル4,000枚）



本屋にない本

国立国会図書館は、法律によって定められた納本制度により、日本国内の出版物を広く収集しています。このコーナーでは、主として取次店を通さない国内出版物を取り上げて、ご紹介します。

こぐま社の絵本研究

「こぐま社の絵本」研究会 編・刊
2013.6 205p 26cm <請求記号 KC511-L16>

『11ぴきのねこ』や『わたしのワンピース』、『しろくまちゃんのほっとけーき』と聞けば、イラストがぱっと目に浮かぶ方が多いだろう。出版から40年以上経ってもなお子どもたちに読まれているロングセラー絵本であるが、これらの絵本はこぐま社から出版されている。

今回紹介する本は、三宅興子主宰の梅花女子大学大学院の自主ゼミが発端となった「こぐま社の絵本」研究会のメンバーが、こぐま社が出版した絵本からそれぞれ選んだ絵本作家や作品に関して論文にまとめ、研究会の集大成として刊行した論文集である。

大きく2章に分かれ、「Ⅰ. こぐま社の絵本研究論考」では、「11ぴきのねこ」シリーズ、多田ヒロシの絵本、『わたしのワンピース』、「こぐまちゃん」シリーズ、「絵巻えほん」シリーズ、ましませつこのわらべうたえほん、赤ちゃん絵本を取り上げ、分析している。

たとえば、『11ぴきのねこ』では、なぜねこは11匹なのか。1匹だけ名前がついている「とらねこたいしょう」はどういう存在なのか。シリーズが進むにつれ、ねこたちに関わりを持つ生物とねこたちとの関係はどう変化するのか。様々な角度から分析されていて興味深い。『わたしのワンピース』では、作品世界に誘うための画面展開の工夫や色彩の効果、絵とことばの関係などを丁寧に読み解いている。これらの論文には、挿絵がふんだんに使われており、

絵本を目にしたことがない方にも、理解しやすいように工夫されている。

こぐま社が創立された1966年当時は、数多くの翻訳絵本が出版されていた。創業者の佐藤英和は、日本の子ども

たちが初めて出会う絵本は、生活習慣の異なる外国人の人が描くのではなく、日本の作家や画家が絵本を作ることが大事ではないかと考えるようになったという。「こぐまちゃん」シリーズでは、日本の子どもたちに「日本の色」を伝えたいという制作者の思いがあったとのことだが、その「日本の色」とはどのような色であったのかが、詳細に考察された論文も収められている。

「Ⅱ. 佐藤英和氏とこぐま社」では、佐藤にインタビューした内容が紹介されている。また、「こぐま社の絵本」研究会を主宰する三宅が、佐藤のこれまでの歩みについて、こぐま社の出版物や、座談会やインタビューなどでの佐藤の発言を取り上げながら論じている。「子どもにとっての絵本とは何か?」ということを常に意識し、「日本の子どもに、日本の絵本を」というテーマを掲げ、様々な工夫を凝らして絵本制作を行ってきたことが伝わってくる。

巻末には、1966年12月から2013年2月までのこぐま社の絵本出版目録が載っている。子どもの頃に読んだ懐かしい絵本に再び出会えるかもしれない。

(総務部企画課 小沼 里子)



国際子ども図書館 新館完成記念式典

9月16日、国際子ども図書館において、新館完成記念式典を開催した。この式典は、調査研究のための新しい資料室である児童書研究資料室、児童書関係の講演会等を開催する研修室、約65万冊の収蔵能力を持つ書庫を擁する新館「アーチ棟」の完成を記念し、9月17日の児童書研究資料室開室に先立って開催したものである。国会関係者、各国大使館関係者、国土交通省はじめ建築関係者、児童書および図書館関係者、上野公園文化機関関係者等多くの方々のご臨席を賜った。式典では、既存棟であるレンガ棟3階ホールでの国立国会図書館長による式辞および衆参両院議長によるご祝辞の後、アーチ棟を臨むラウンジにおいてテープカットを執り行った。

式典の前後には、「アーチ棟」について内覧ツアーを行ったほか、建物全体の自由内覧を行い、主に、アーチ棟の設計コンセプトや建物の特徴、児童書研究資料室における新しいサービスの内容を紹介した。



**第26回納本制度審議会
および
第11回納本制度審議会
代償金部会**



9月4日、第26回納本制度審議会および第11回納本制度審議会代償金部会が、審議会委員12名、専門委員3名が出席して東京本館で開催された。

審議会では、7月1日付けで、委員の委嘱および代償金部会に所属する委員の指名が行われたことが報告され、中山信弘委員が互選により会長に選出された。中山会長は、福井健策委員を会長代理に指名した。また、オンライン資料の補償に関する小委員会所属委員として6名の委員と3名の専門委員を指名し、福井健策委員を小委員長に指名した。事務局から、出版物納入状況、オンライン資料収集制度の運用状況等について報告を行い、質疑応答があった。

審議会終了後、代償金部会が開催され、斎藤誠委員が互選により部会長に選出された。斎藤部会長は、江上節子委員を部会長代理に指名した。その後、平成23年7月29日納本制度審議会答申に基づき、日本出版取次協会に対する代行手数料について、3年ごとの啓蒙・周知活動および担当者の異動等に対応した適時適切な納入漏れ防止措置を今後継続して行うことを条件として、納入資料1点につき150円から170円に引き上げることが承認された。

審議会に関する情報は、国立国会図書館ホームページ>国立国会図書館について>納本制度審議会 (<http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/deposit/council/index.html>) に掲載している。

納本制度審議会委員・専門委員名簿(五十音順 敬称略)(平成27年9月4日現在)

会 長	中山 信弘	明治大学特任教授、東京大学名誉教授
会長代理	福井 健策	弁護士
委 員	石崎 孟	一般社団法人日本雑誌協会理事
	植村 八潮	専修大学文学部教授
	江上 節子	武蔵大学社会学部教授
	遠藤 薫	学習院大学法学部教授
	相賀 昌宏	一般社団法人日本書籍出版協会理事
	角川 歴彦	株式会社KADOKAWA取締役会長
	斎藤 誠	東京大学大学院法学政治学研究科教授
	斉藤 正明	一般社団法人日本レコード協会会長
	白石 興二郎	一般社団法人日本新聞協会会長
	永江 朗	公益社団法人日本文藝家協会電子書籍出版検討委員会委員長
	根本 彰	慶應義塾大学文学部教授
	野原 佐和子	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授
	藤井 武彦	一般社団法人日本出版取次協会会長
専門委員	佐々木 隆一	一般社団法人電子出版制作・流通協議会監事
	三瓶 徹	一般社団法人日本電子出版協会事務局長
	樋口 清一	一般社団法人日本書籍出版協会事務局長

韓国国立中央図書館 との第18回業務交流

○代償金部会所属委員

斎藤誠（部会長）、江上節子（部会長代理）、石崎孟、相賀昌宏、斉藤正明、根本彰、福井健策

○オンライン資料の補償に関する小委員会所属委員・専門委員

福井健策（小委員長）、植村八潮、遠藤薫、斎藤誠、永江朗、根本彰、佐々木隆一、三瓶徹、樋口清一

9月7日から13日にかけて、韓国国立中央図書館（ソウル）において標記業務交流が行われ、本吉理彦利用者サービス部副部長ほか計3名が、当館代表団として訪韓した。

両図書館の現況と今後の課題、「遠隔利用サービスの在り方について」および「書誌データの作成・提供に関する最新動向」をテーマとする報告が双方からなされ、活発な意見交換が行われた。



お知らせ

■ 平成27年度東日本大震災 アーカイブ国際シンポジウム 「地域の記録としての震災 アーカイブ～未来へ伝える ために～」



トミー・ムリア・ハサン氏



アチェ津波博物館

国立国会図書館は、東北大学災害科学国際研究所との共催により、平成28年1月に東北大学災害科学国際研究所多目的ホールを会場として、東日本大震災アーカイブ国際シンポジウムを開催します。

シンポジウムでは、被災した自治体が災害の記録をデジタルアーカイブとして保存し、公開する意義を考え、デジタルアーカイブの利点と課題について議論を行います。また、インドネシアから、アチェ津波博物館館長のトミー・ムリア・ハサン氏を招き、海外における災害メモリアル施設と震災アーカイブの実例を紹介いたします。参加費は無料です。ぜひご参加ください。

○日 時 平成28年1月11日(月・祝) 13:00～16:30 (開場:12:30～)

○会 場 東北大学災害科学国際研究所多目的ホール (定員200名)

(仙台市青葉区荒巻字青葉468-1

地下鉄東西線「青葉山」駅下車「南1」出口徒歩3分)

○プログラム

【特別講演】 アチェ津波博物館館長 トミー・ムリア・ハサン氏

【事例報告】 青森震災アーカイブ (八戸市防災危機管理課)

東日本大震災アーカイブ宮城 (宮城県図書館)

浦安震災アーカイブ (浦安市立中央図書館)

【進捗報告】 岩手県における震災アーカイブの現状

(東北大学災害科学国際研究所准教授 柴山明寛氏)

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ (国立国会図書館)

みちのく震録伝 (東北大学災害科学国際研究所)

【パネルディスカッション】 事例報告者、進捗報告者

○共 催 東北大学災害科学国際研究所

○参 加 費 無料

○申 込 方 法 平成27年12月25日(金)17:00までに、下記「みちのく震録伝」
トップページ掲載のシンポジウム案内からリンクしている「参
加申込みフォーム」にてお申し込みください。定員に達した時
点で受付を終了します。

「みちのく震録伝」(<http://shinrokuden.irides.tohoku.ac.jp>)

○問 合 せ 先

東北大学災害科学国際研究所 情報管理・社会連携部門 災害アーカイブ研究分野

電話 022-752-2099 メールアドレス archiveforum@irides.tohoku.ac.jp

※ シンポジウムの詳細については、「みちのく震録伝」ホームページをご覧ください。

お知らせ

■ 本の万華鏡（第20回） 「本でたどる琳派の周辺」



11月19日から、ミニ電子展示会「本の万華鏡」第20回「本でたどる琳派の周辺」の提供を開始しました。

琳派は、風神雷神の豪華絢爛な金屏風で知られていますが、素朴なかわいらしさやすっきりとした線描などにも特徴があります。平成27年は、琳派のルーツの一人である本阿弥光悦ほんあみこうえつが京都に「芸術村」を開いてから400年になります。

「本の万華鏡」第20回では、琳派と本に関する意外なエピソードをご紹介します。

琳派は最初から「琳派」と呼ばれていたわけではありません。「光琳派」や「宗達光琳派」などという呼称もありました。また、私たちが琳派を知るようになるには、絵手本などの「本」が重要な役割を果たしたことをご存知でしょうか。琳派は、作品そのものや本を通じて海外へも伝わり、アール・ヌーヴォーにも影響を与えました。身近にひそむ琳派の意外な一面をご覧ください。

さらに、「本にみる、かわいい琳派」では、琳派の「かわいい」作品を集めてご紹介します。

○URL <http://www.ndl.go.jp/kaleido/entry/20/>



酒井抱一の人物画
抱一筆『鶯邸畫譜』須原
屋佐助、1800年代



尾形光琳画 白梅の扇面図
法橋光琳画『光琳扇面画帖』
小林文七、明治34



中村芳忠の菊花
中村芳中画『光琳畫譜』
和泉屋庄次郎、文政9



お知らせ

■ 年末年始のご利用について

○年末年始の休館

次の期間、休館いたします。

東京本館、関西館 平成27年12月27日（日）～平成28年1月4日（月）

国際子ども図書館 平成27年12月28日（月）～平成28年1月4日（月）

（児童書研究資料室は、12月27日（日）は臨時休室します。）

○NDL-OPACの休止

年末年始にNDL-OPACのシステムメンテナンスを行います。そのため、次の期間は、NDL-OPACによる資料検索、遠隔複写申込み等のサービスを休止します。

平成27年12月26日（土）19:00～平成28年1月4日（月）18:00

※この期間の資料検索は、国立国会図書館サーチをご利用ください。

○来館申込みによる後日郵送複写

後日郵送複写について、複写製品の年内発送をご希望の場合は、下表に示した日までにお申し込みください。ただし、分量が多い場合や複写方法によっては、発送が1月5日（火）以降になることがあります。お急ぎの場合は、下表日程にかかわらず、できるだけお早めにお申し込みください。

複写の種類	東京本館	関西館	国際子ども図書館
電子式複写	12/22（火）	12/22（火）	12/19（土）
マイクロフィッシュからの引伸印画	12/22（火）	12/22（火）	12/19（土）
マイクロフィルムからの引伸印画	12/22（火）	12/22（火）	12/19（土）
フィルムからフィルムへのプリント	12/22（火）	12/19（土）	12/19（土）
フィッシュからフィッシュへのプリント	12/22（火）	12/19（土）	12/19（土）
撮影によるネガフィルムの作製	12/22（火）	12/19（土）	12/19（土）
撮影からの引伸印画	12/18（金）	12/15（火）	12/15（火）
撮影からのポジフィルム作製	12/18（金）	12/15（火）	12/15（火）

お知らせ

■ 子どものへや・世界を知る へやの休室

国際子ども図書館では、レンガ棟改修工事に伴い、子どものへやおよび世界を知るへやを以下の期間休室します。

子どものへや 平成28年1月5日（火）から2月28日（日）まで

世界を知るへや 平成27年12月1日（火）から平成28年2月28日（日）まで
※平成28年1月と2月の「子どものためのおはなし会」「ちいさな子どものためのわらべうたと絵本の会」は休止します。利用者の皆様にはご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

○問合せ先

国立国会図書館 国際子ども図書館 児童サービス課

電話 03 (3827) 2053 (代表)

■ 新刊案内 国立国会図書館の 編集・刊行物

レファレンス 777号 A4 77頁 月刊 1,000円（税別） 発売 日本図書館協会
年金積立金の管理運用に係る制度の変遷と現状の課題
わが国の障害者施策—障害者権利条約批准のための国内法整備を中心に—
社会資本としての下水道—現状と課題—



平成26年度国際子ども図書館児童文学連続講座講義録「児童文学とそのマルチメディア化」 A4 103頁 年刊 1,700円（税別） 発売 日本図書館協会
(ISBN 978-4-87582-777-1)

はじめに

『フランダースの犬』の映画化、アニメ化、紙芝居化とベルギー
スタジオジブリ版『借りぐらしのアリエッティ』は何語を話すのか—日本化
した『床下の小人たち』

『若草物語』の三つの映画化—あなたはどのジョーが一番好きですか？

『秘密の花園』—本から生まれた三つの映画と映画から生まれた本
資料紹介—日本における児童文学と映像作品

おわりに



入手のお問い合わせ

日本図書館協会

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812

「あの人」に会えた! 企画展示「あの中の直筆」報告	(展示委員会企画展示小委員会)	647	②	14-16
「あの中の直筆」誌上フロアレクチャー	(季武 嘉也)	647	②	18-22
関西館小展示の開催とその「再利用」	(関西館展示小委員会)	647	②	23-25
東日本大震災に関する記録の継承		648	③	4-13
国立国会図書館東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」の連携アーカイブを中心に	(電子情報部電子情報流通課)	648	③	4-9
東日本大震災アーカイブに関するイベントのご紹介	(電子情報部電子情報流通課)	648	③	10-13
国立国会図書館のサービスシステムの歩みと新たな方向性の模索—電子図書館事業20年を迎えて—	(中山 正樹)	648	③	18-24
デジタル文化資源の情報基盤を目指して Europeanaと国立国会図書館サーチ	(電子情報部電子情報サービス課)	649	④/⑤	4-13
基調講演「オープンデータの潮流とEuropeana」		649	④/⑤	5
特別講演 Transforming the World with Culture : Introducing Europeana & the Strategic Plan 2020		649	④/⑤	6-7
事例報告Ⅰ「国立国会図書館(NDL)サーチの今後の展開」		649	④/⑤	8
事例報告Ⅱ「連携機関から見たNDLサーチ:今後への期待」		649	④/⑤	9-10
パネルディスカッション デジタル文化資源の収集・提供・活用の未来		649	④/⑤	11-12
国立国会図書館のウェブページを使い尽くそうアイデアソン—NDLオープンデータ・ワークショップ	(電子情報部電子情報流通課、次世代システム開発研究室)	649	④/⑤	15-17
「本屋にない本」でみる納本制度	(調査及び立法考査局議官官庁資料課、収集書誌部収集・書誌調整課、利用者サービス部人文課、科学技術・経済課)	649	④/⑤	18-24
図書館を「見える化」する レファレンス協同データベース事業	(関西館図書館協力課)	650	⑥	4-11
これからの図書館のあり方を検討するために 図書館利用者の情報行動の傾向及び図書館に関する意識調査	(関西館図書館協力課)	650	⑥	13-19
国立国会図書館の平成27年度予算	(総務部会計課)	650	⑥	28-29
新たな貴重書のご紹介 第49回貴重書等指定委員会報告	(貴重書等指定委員会)	651	⑦	4-10
インターネットを活用した古典籍の調査 『山幸(山の幸)』を例に	(伊藤 りさ)	651	⑦	11-14
東日本大震災アーカイブシンポジウム 4年目の震災アーカイブの現状と今後の未来(世界)へ繋ぐために	(電子情報部電子情報流通課)	651	⑦	16-20
次の時代に向けて 国際子ども図書館リニューアル	(国際子ども図書館企画協力課)	652/653	⑧/⑨	4-13
アーチ棟のできるまで 国際子ども図書館拡充整備事業について	(総務部管理課)	652/653	⑧/⑨	14-19
放送開始90年記念 脚本アーカイブズ・シンポジウム「脚本アーカイブズ」の新たなステップへ—未来に向けた保存と利用	(利用者サービス部音楽映像資料課)	652/653	⑧/⑨	20-23
平成27年度国立国会図書館特集展示 1945 終戦の前後、何を読み、何を記したか	(展示委員会企画展示小委員会)	654	⑩	4-8
和紙、大活躍!! 図書館資料を和紙でなおす	(収集書誌部資料保存課)	654	⑩	9-14
知を活かす—英国図書館の新ビジョン Living Knowledge : The British Library's Future Vision	(総務部支部図書館・協力課)	654	⑩	16-21
憲政資料室の新規公開資料から	(利用者サービス部政治史料課)	655	⑪	4-9
憲政資料収集活動の点描 1980年代後半～90年代を中心に	(堀内 寛雄)	655	⑪	10-15
デジタルコレクションから歴史・文化を掘り起こそう ～NDLデータ活用ワークショップ報告～	(電子情報部電子情報流通課)	655	⑪	16-20
「ダイナミックな図書館:アクセス、発展、変化」世界図書館・情報会議 第81回国際図書館連盟(IFLA)年次大会	(国立国会図書館IFLAケープタウン大会代表团)	656	⑫	4-14



世界図書館紀行

海外に派遣された当館職員が、現地で見えた特色ある図書館を紹介。

オーストラリア ビクトリア州立図書館	(本田 伸彰)	650	⑥	20-26
バンコク	(森田 理恵子)	651	⑦	21-25
英国図書館・スコットランド国立図書館	(奥村 牧人)	654	⑩	22-27
タシケント (ウズベキスタン)	(山本 直樹)	655	⑪	21-27



What's 書誌調整 ふたたび

「書誌調整」に関するトピックをご案内。

(第1回) はじめに	(清水 悦子)	651	⑦	26
(第2回) 目録規則は進化する	(津田 深雪)	652/653	⑧/⑨	24-26
(第3回) 典拠は大切—Web NDL Authoritiesを使ってみよう!— (前編)	(木下 竜馬)	656	⑫	18-21



図書別室の資料から

図書別室で利用できる一風変わった図書館資料の紹介。

(第1回) かるた	(松戸 沙耶佳)	655	⑪	28-30
(第2回) 写真帳	(山口 紀子)	656	⑫	15-17



本の森を歩く

国立国会図書館の巨大な書庫の中から、毎回一つのテーマにそって蔵書を紹介。

(第13回) 文学にみる公務員像	(井田 敦彦)	648	③	25-29
------------------	---------	-----	---	-------



本屋にない本

納本制度により収集した出版物の中から、主に取次店を通らず入手しにくい国内出版物を紹介。本誌創刊以来の連載。

新たな世紀、新たなサービス 電子図書館へのあゆみ 日本点字図書館創立70周年記念誌	(大友 恒文)	646	①	26
テルミ	(見方 宗子)	646	①	27
知られざる世界への挑戦 航海、探検、漂流を記した書物百選 学校法人京都外国語大学創立65周年記念稀覯書展示会 展示目録	(橋本 貴之)	647	②	26
館長庵野秀明特撮博物館 ミニチュアで見る昭和平成の技	(藤田 壮介)	647	②	27
雲仙・普賢岳噴火災害の記憶 次の世代へ 雲仙・普賢岳噴火災害20周年記録集	(西村 沙織)	648	③	15

北海道南西沖地震20年記念奥尻島シンポジウム 復興のその先へ 幸の島おくしりの輝く未来に向けて 報告書 (平元 亮子)	648	③	16
阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター10周年記念誌 (芦田 恵)	648	③	17
墨田のまちとアートプロジェクト 墨東まち見世2009-2012ドキュメント (本間 渚沙)	649	④/⑤	25
The Leica ライカの100年 (吉原 努)	650	⑥	27
連環画研究 (水流添 真紀)	651	⑦	27
トヨタ自動車75年史 もっといいクルマをつくろうよ 1937-2012 (安田 隆昭)	651	⑦	28
アートが絵本と出会うとき 美術のパイオニアたちの試み avant-garde and children (山口 紀子)	652/653	⑧/⑨	32
安定化処理 大津波被災文化財保存修復技術連携プロジェクト Stabilization processing (廣川 明日菜)	654	⑩	15
トンボ鉛筆100年史 The 100 year history of Tombow Pencil (梅澤 孝助)	655	⑪	31
こぐま社の絵本研究 (小沼 里子)	656	⑫	25



館内スコープ

館内の様々な業務を担当職員が紹介するコラム。

音訳—音で読む学術文献を作る— (図書館協力課障害者図書館協力係)	646	①	10
Facebookはじめました 国立国会図書館の展示 (東京・関西) (サービス企画課展示企画係)	647	②	17
『国立国会図書館月報』の編集をしています (総務課編集係)	648	③	30
使い尽くされたい、NDLサーチ。 (電子情報サービス課情報アクセス提供係)	649	④/⑤	14
未来のウェブにつながる仕事です (電子情報流通課標準化推進係)	650	⑥	12
今日は博物館、明日はお寺 貴重書等指定委員会幹事の仕事 (人文課古典籍係)	651	⑦	15
図書館に行かなくても文献を入手できます 国立国会図書館の遠隔複写サービス (文献提供課複写貸出係)	652/653	⑧/⑨	27
国会議事堂内での図書館運営 国会分館 (国会分館資料情報第一係)	654	⑩	28
職員の「学び」を支えます (人事課研修係)	655	⑪	32
国際子ども図書館に住む妖精 児童書研究資料室の移転 (資料情報課書誌情報係)	656	⑫	24



TOPIC

国立国会図書館の新しいサービス、事業について詳しく紹介。

調査及び立法考査局の取り組み—総合調査「東日本大震災からの復興への取組の現状と課題」の成果をまとめた— (調査及び立法考査局調査企画課)	648	③	14
国際子ども図書館リニューアル! (国際子ども図書館企画協力課)	649	④/⑤	26-27
著作権者のご連絡先等が不明な著作権者について、情報をお寄せください (関西館電子図書館課)	651	⑦	29
空襲のあった時代を物語る資料 米国戦略爆撃調査団文書のデジタルコレクションへの追加が完了しました (利用者サービス部政治史料課)	652/653	⑧/⑨	28-29
国立国会図書館サーチのこれから 「国立国会図書館サーチ連携拡張に係る実施計画」のご紹介 (電子情報部電子情報サービス課)	652/653	⑧/⑨	30-31



NDL News 最近の動き

館にかかわる新しい動き、重要な会議等の報告。

おもな人事	646	①	30
平成26年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会	646	①	30
平成26年度国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会	646	①	30
中国国家図書館との第33回業務交流	646	①	31
第5回科学技術情報整備審議会	647	②	28
韓国国会図書館、韓国国会立法調査処との業務交流（第5回）	647	②	29
おもな人事	649	④/⑤	28
国際政策セミナー「国会による行政統制—ドイツの『議会留保』をめぐる憲法理論と実務」	649	④/⑤	29
平成26年度書誌調整連絡会議	649	④/⑤	30
法規の制定	650	⑥	30-31
第25回納本制度審議会	650	⑥	31
法規の制定	652/653	⑧/⑨	33
平成27年度国立国会図書館長と都道府県立及び政令指定都市立図書館長との懇談会	654	⑩	29
第6回科学技術情報整備審議会	654	⑩	30
法規の制定	654	⑩	31-32
重要文化財の指定	655	⑪	33
国際子ども図書館新館完成記念式典	656	⑫	26
第26回納本制度審議会および第11回納本制度審議会代償金部会	656	⑫	27-28
韓国国立中央図書館との第18回業務交流	656	⑫	28



お知らせ

新しいサービス、イベント、研修等のお知らせのほか、刊行物の新刊案内を掲載。

国際政策セミナー「国会による行政統制—ドイツの『議会留保』をめぐる憲法理論と実務」	646	①	32
「国会会議録検索システム」の機能追加について	646	①	33
第3回国連防災世界会議/パブリック・フォーラム（関連事業）防災・復興に関する展示「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（愛称：ひなぎく）」	646	①	34
平成26年度の利用者アンケートの結果を公表しました	646	①	35
関西館小展示（第17回）「明日のレシピはフルコース—作りた味を見つけよう—」	646	①	36
国際子ども図書館展示会「子どもを健やかに育てる本2014—厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財（出版物）」	646	①	37
子どものための絵本と音楽の会	646	①	38
放送開始90年記念・脚本アーカイブズ・シンポジウム「脚本アーカイブズ」の新たなステップへ—未来に向けた保存と利用	648	②	30-31
調査報告書『情報通信をめぐる諸課題』『情報通信技術の進展とサイバーセキュリティ』を刊行しました	648	③	31
記事掲載箇所の調査サービスを試行します	648	③	32
平成27年度国立国会図書館職員採用試験	648	③	33
平成27年度国立国会図書館図書館情報学実習の研修生を募集します	648	③	34

講演会「私が子ども時代に会った本一下重暁子、森絵都、片川優子」	648	③	35
講演会 知を活かす—英国図書館のビジョン Living Knowledge: The British Library's Future Vision	649	④/⑤	31
本の万華鏡（第18回）「登山事始め—近代日本の山と人」	649	④/⑤	32
電子展示会「日本の子どもの文学—国際子ども図書館所蔵資料で見る歩み」に資料を追加しました	649	④/⑤	33
平成27年度の図書館員を対象とする研修	649	④/⑤	34-35
東京本館「利用ガイダンス」	649	④/⑤	36
資料のデジタル化に伴い原資料の利用を停止します	651	⑦	30
国際子ども図書館所蔵資料の新館書庫への移転作業について	651	⑦	31
全国書誌データ・レファレンス協同データベース活用研修会のご案内	651	⑦	32
平成27年度アジア情報研修	651	⑦	33
本の万華鏡（第19回）「白瀬轟、南極へ～日本人初の極地探検」	652/653	⑧/⑨	34
関西館小展示（第18回）「古今東西いきもの絵巻—いる、いない、もういない—」	652/653	⑧/⑨	35
国際子ども図書館展示会「世界をつなぐ子どもの本—2014年国際アンデルセン賞・IBBY オナーリスト図書展」	652/653	⑧/⑨	36
国際子ども図書館講演会「＜児童文学史＞をもとめて—展示会「日本の子どもの文学」の5年間をふりかえる」	652/653	⑧/⑨	37
第17回図書館総合展に参加します	654	⑩	33
平成27年度東日本大震災アーカイブ国際シンポジウム「地域の記録としての震災アーカイブ～未来へ伝えるために～」	656	⑫	29
本の万華鏡（第20回）「本でたどる琳派の周辺」	656	⑫	30
年末年始のご利用について	656	⑫	31
子どものへや・世界を知るへやの休室	656	⑫	32
新刊案内 国立国会図書館の編集・刊行物			毎号



『国立国会図書館月報』のご購入については、公益社団法人日本図書館協会へお問い合わせください。
 バックナンバーも取り扱っております。

〒104-0033 東京都中央区新川1-11-14 電話 03 (3523) 0812 (販売)

CONTENTS

- 02 <Book of the month - from NDL collections>
Shibukawa Shunkai's letters: A life dedicated to the Jōkyō calendar
- 04 Dynamic Libraries: Access, Development, and Transformation
World Library and Information Congress: 81st IFLA General Conference and Assembly
- 15 Materials from the Special Purpose Reading Room (2): Photograph albums
- 18 What's bibliographic control? Revisited (3): Authorities are important
—Let's use the Web NDL Authorities! (Part One)
- 22 <TOPIC>
○ Researchers' Reading Room in the Arch Building of the ILCL now open to the public
- 24 < Tidbits of information on NDL >
○ A fairy living in the ILCL? Relocation of the Researchers' Reading Room
- 25 <Books not commercially available>
○ *Kogumasha no ehon kenkyū*
- 26 <NDL NEWS>
○ Inauguration Ceremony of the New Building of the ILCL
○ 26th meeting of the Legal Deposit System Council and 11th meeting of the Compensation Division
○ 18th mutual visit program with the National Library of Korea
- 29 <Announcement>
○ International Symposium on the Great East Japan Earthquake Archive FY 2015: "Disaster Archives as community memories for the future"
○ Kaleidoscope of Books (20) "Tracing the path of Rimpa and its surroundings through books"
○ Library services at the year-end and New Year
○ Temporary closing of the Children's Library and the Meet the World
○ Book notice - Publications from NDL
- 33 Annual index to *National Diet Library Monthly Bulletin*, nos. 646-656

国立国会図書館月報

平成27年12月号 (No.656)

平成27年12月1日発行

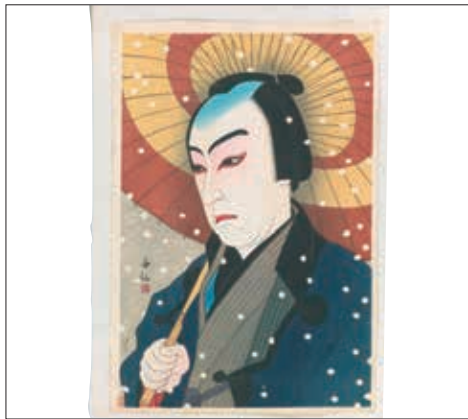
発行所 国立国会図書館

編集者 小寺正一
責任者

印刷所 株式会社正文社印刷所

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1
電話 03 (3581) 2331 (代表)
FAX 03 (3597) 5617
E-mail geppo@ndl.go.jp

本誌に掲載した論文等のうち意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りいたします。
本誌に掲載された記事を全文または長文にわたり抜粋して転載される場合には、事前に当館総務部総務課にご連絡ください。
本誌517号以降、PDF版を当館ホームページ (<http://www.ndl.go.jp/>) > 刊行物 > 国立国会図書館月報でご覧いただけます。



「第十八 澤村宗十郎 小磯ヶ原業平礼三」
名取春仙 画 [渡辺版画店] [昭和2 (1927)]
1枚 40.3×27.5cm
〔春仙似顔畫集〕＜請求記号 寄別7-8-2-7＞所収
〔国立国会図書館デジタルコレクション〕でご覧になれます
<http://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2592125/17>

国立国会図書館月報

平成27年12月1日発行 (毎月1回1日発行)
(12月号通巻666号)